

香川県中学校教育研究会  
研究紀要



R3

62



---

---

香川県英語教育研究会秋季研修会並びに  
香川県中学校教育研究会英語部会研究大会  
レクザムホール

11月5日(金)



開会行事



授業実演Ⅱ 授業説明



授業実演Ⅰ 授業説明



授業実演Ⅱ 質疑応答



授業実演Ⅰ 質疑応答



指導助言

---

---

香中研 若年教員授業力向上研修

国語部会	附坂中	10月26日(火)	理科部会	附高中	10月1日(金)
社会科部会	附坂中	12月14日(火)	音楽部会	県教七	10月27日(水)
数学部会	附高中	10月21日(木)	美術部会	附坂中	11月18日(木)



国語部会



理科部会



社会科部会



音楽部会



数学部会



美術部会

---

---

香中研 若年教員授業力向上研修

技・家部会（技術）	附高中	10月22日（金）
技・家部会（家庭）	附高中	10月22日（金）
英語部会	レクザムホール	11月5日（金）



技術・家部科会（技術分野）



技術・家部科会（家庭分野）



英語部会

---

---



# 目 次

## 香川県中学校教育研究会 研究紀要 第62号

---

---

グラビア（研究大会・若年研修）	道徳教育研究会……………16
はじめに	特別活動研究会……………17
香川県中学校教育研究会	生徒指導研究会……………18
会 長 江 口 俊 史…………… 1	メディア教育研究会……………19
	人権・同和教育研究会……………20
あいさつ	学校図書館研究会……………21
香川県中学校長会	教育相談研究会……………22
会 長 間 嶋 浩…………… 2	特別支援教育研究会……………23
	へき地教育研究会……………24
I 本年度の研究主題…………… 3	学校事務研究会……………25
	学校給食研究会……………26
II 本年度の研究発表と	
来年度以降の研究発表予定…………… 4	IV 事業報告
	本 部……………27
III 研究報告	各 支 部……………28
1 研究大会を実施した部会	各 部 会……………31
英語教育研究会…………… 5	若 年 研 修……………37
2 研究大会を実施しなかった部会	V 組織等
国語教育研究会…………… 7	役 員……………38
社会科教育研究会…………… 8	予 算……………40
数学教育研究会…………… 9	会 則……………41
理科教育研究会……………10	部会運営細則……………43
音楽教育研究会……………11	
美術教育研究会……………12	研究大会開催地区割り当て計画……………44
保健体育研究会……………13	香中研とはこのような団体です……………45
技術・家庭科教育研究会……………14	
養 護 研 究 部 会……………15	

---

---

# は じ め に

香川県中学校教育研究会  
会 長 江 口 俊 史

令和3年度、香川県中学校教育研究会の会員の皆様方には、コロナ感染症対策のため香中研夏期研修会等が中止となる中、各支部での研修会や若年研修等の研究活動に取り組んでいただき、心から感謝申し上げます。

これからの新しい時代は、情報化・グローバル化等がさらに進む激変の時代と言えます。学校教育を取り巻く環境も急速に変化を遂げ、現在は、戦後最大規模の教育改革の最中にあると言っても過言ではありません。現在の中学生は、その全員が改革による変化に直面する世代です。

このような社会情勢の中、本年度から新学習指導要領が完全実施となりました。



(新しい学習指導要領リーフレット 文部科学省)

文部科学省から出ている新しい学習指導要領リーフレットの4羽の鳥は、幼児期、小学校段階、中学校段階、高等学校段階と成長していく姿であり、予測困難な社会の変化に対応する「生きる力」を発揮し、これからの社会を自由に飛んでいく姿を表現しているようです。リーフレット裏面には、各教科等を通じて得た力が大人になってからどのように生かされるのかが示されています。これは、各教科等の学びの中で身につけた資質・能力が社会人になってからも重要な働きをするということです。

新しい学習指導要領では、「資質・能力」と「主体的・対話的で深い学び」が象徴的な言葉であり最大の特徴となっています。「何ができるようになるか」を全教科等で「資質・能力」の三つの柱で整理し、「資質・能力」を育成するために「何を学ぶか」が考えられ、「どのように学ぶか」として「主体的・対話的で深い学びの視点からの学習課程の改善」が求められています。学習評価も、資質・能力が三つの柱「知識及び技能が習得されるようにすること。」「思考力、判断力、表現力等を育成すること。」「学びに向かう力、人間性等を涵養すること。」と整理されたことを踏まえて、観点別学習状況評価についても、資質・能力に関わる「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点に整理されました。特に、「学びに向かう力、人間性等」については、観点別評価を通じて見取ることができる部分と、観点別評価や評定にはなじまず、個人内評価を通じて見取る部分があり、各教科等の特質に応じた評価方法の工夫改善が必要となります。評価については、会員の皆様も試行錯誤を繰り返しながら取り組まれている現状があり、更なる研修の必要性も感じております。

最後になりましたが、本研究会の活動に対して、ご指導・ご協力をいただいております香川県教育委員会、各市町(学校組合)教育委員会、香川県中学校校長会、香川県教育会をはじめ、各教育関係機関の方々に対してお礼を申し上げますとともに、次年度も本会のさらなる発展・充実のため、格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。



# あ い さ つ

## — 香中研への期待 —

香 川 県 中 学 校 長 会  
会 長 間 嶋 浩

香中研が昭和36年に発足して今年で62年を迎え、本研究紀要も第62号となりました。

60年を超える長きにわたって、多くの諸先輩諸氏の創意工夫した教育実践を継承しながら、本県の中学校教育を支え、また、時代の流れとともに変貌する社会環境や生徒の実態に応じて工夫・改善を図り、新たな教育を構築されてこられた香川県中学校教育研究会に対して、香川県中学校長会として深く敬意を表します。

さて、昨年度からの新型コロナウイルス感染拡大から2年が経とうとしていますが、未だ収束が見えず、今年度も香中研夏季研修会を中止せざるを得ないなど、大きな影響を受け続けています。

学校現場においては、生徒や教職員の命を守ることを第一に、新しい生活様式のもと、様々な対策を講じ、感染防止に努めながら教育活動が進められています。

また、「学びを止めない」、「新型コロナウイルス感染症とともに生きていかなければならない」という強い意識のもと、マイナス面を嘆くのではなく、コロナ禍で得られたプラス面を子どもたちと共有し、子どもたちと教職員が一緒になって、工夫を重ねながら一歩ずつ着実に教育活動が展開されています。

ICT機器の活用についても、コロナによって促進された感は否めませんが、リモート会議の実施や、AI型ドリルの利用、オンライン学習の導入など、今年度になって一人一台端末の活用が一気に進んできています。

こうした中、今年の1月に文部科学省より「令和の日本型学校教育」が示されました。この中で、新学習指導要領の着実な実施、学校における働き方改革の推進、GIGAスクール構想の実現などが課題としてあげられています。

本年度から全面実施となった学習指導要領では、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む社会に開かれた教育課程の実現、カリキュラム・マネジメントの実施が求められています。そして、Society5.0時代に生きる子どもたちにとって、GIGAスクール構想を推進し、誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びの実現が重要とされています。

いじめ・不登校等の生徒の指導に係る対応や学校における働き方改革等の教職員の勤務・服務に係る対応に努めることも必要です。

さらに、香川県教育委員会において、今年の10月に「郷土を愛し 夢と志を持って 自ら学び 歩み続ける人づくり ～自立・協働・創造を支える香川の教育～」を基本理念とした第4期香川県教育基本計画（令和3年度～7年度）が策定されました。

新型コロナという大きな困難に直面する今だからこそ、本研究会を通して、県下の学校の英知と創造力が結集され、香川県の中学校教育が一層充実、発展するということをしっかり発信してほしいと願います。

また、時代の流れの変化に翻弄されることなく、次代の教育の有り様をしっかりと見定めて、子どもたちの健やかな学びの保障につながるよう、指導の充実に向けて道筋を示していただくことを切に願うとともに、期待するところがあります。

最後になりましたが、江口会長様をはじめ、ご尽力いただきました関係の皆様にご心より感謝申し上げますとともに、香川県中学校教育研究会の今後のますますの充実・発展を祈念申し上げます。あいさつといたします。

# I 本年度の研究主題

## 1 研究主題

### 未来社会を切り拓く、生きる力を育む中学校教育の在り方

#### 2 研究主題見直しの背景

本研究会は、平成24年度より研究主題を、目指す生徒像から個々の教師像や学校像に変更して9年間の研究を進めてきた。それには次のような背景があったからである。①教職員の高齢化と大量退職を目前に控え、ベテラン教員の専門的知識やスキルの伝承を急がねばならなかった。②研究会離れの傾向から、教職員の研究会活動への参加を促す。③校内研修の時間が確保しにくい中学校において、香中研の研究活動を学校に生かす必要がある。

こうした状況と課題から、個々の研究団体としての性格をより明確に打ち出し、加入する全教職員、全中学校に研究会の一員であることや役割の自覚を促して研究会活動の活性化を図ることをねらって研究主題を目指す教師像に変更したのである。この研究主題のもとでの9年間の取組により、ねらいに対する成果が見られたことは確かである。

そして、令和3年度から新しい学習指導要領が全面実施となるこのタイミングで、いま一度研究主題を目指す生徒像の視点で見直すこととした。それは、今回の学習指導要領が、生徒たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を明確にし、一層確実に育成することを目指して改訂されたという背景があるからである。

#### 3 新学習指導要領が目指すもの

予測が困難な時代において、子供たちに求められる資質・能力とはどのようなものであろうか。新学習指導要領では、育成を目指す資質・能力を明確にするために、学校教育がこれまでその育成を目指してきた「生きる力」をより具体化し、「何ができるようになるか」という観点から「実際の社会や生活で生きて働く知識・技能の習得」、「未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等の育成」、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等の涵養」の三つの柱に整理した。また、その育成のため、「主体的・対話的で深い学び」の視点から学習過程の改善を図り、質の高い学び

を実現させる教育課程の実現を目指すことが示された。

#### 4 香川県の目指す学校教育

本県においても、「香川県の新しい指導体制の在り方について」において、これまで取り組んできた「個に応じた細かな指導」を継承しつつ、変化の激しい予測困難な時代の中でも通用する確かな学力を身に付けるため、自分のよさや可能性を認識して個性を生かしつつ、多様な他者を価値ある存在として尊重し、協働して様々な課題を解決していく学び（「個を活かす協働的な学び」）を充実させる取組の方向性が示されている。

#### 5 目指す生徒像と研究主題の設定

これらのことを踏まえ、本研究会では目指す生徒像を「急激な社会の変化に主体的に関わり、自らの可能性を発揮し、他者と協働しながら、よりよい社会の創り手となる生徒」とした。

そして、このような生徒を育成するために、学校全体としてカリキュラム・マネジメントに努めることが求められていることから、研究主題を「未来社会を切り拓く、生きる力を育む中学校教育の在り方」として研究を進めることとした。

#### 6 今後の研究推進について

- (1) 学習指導要領のねらいや考え方等を踏まえて研究を推進するとともに、研究組織、研究内容、研究方法の改善を図り、より充実した研究を推進する。
- (2) 各郡市研究会を母体とした研究体制の下に、研究の継続を重視し、互いに緊密な連絡を取りながら実践的・組織的研究を推進する。
- (3) 上記の主題に基づき、次年度以降の研究の方向を見通しながら、年度ごとの成果と課題を踏まえて研究計画を立て、研究を推進する。

## II 本年度の研究発表と来年度以降の研究発表予定

### ■ 令和3年度研究大会

番号	部会名	期日	郡市	会場校	規模	大会主題
1	英語	11月5日(金)	高松	レクザムホール	県 (小 中 高)	グローバル社会において未来を切り拓く力を育成する英語教育を目指して

### ■ 令和4年度研究大会

番号	部会名	期日	郡市	会場校	規模	大会主題
1	道徳教育	11月2日(水)	丸仲善	善通寺市立西中学校	県	豊かな心を育て、ともに未来を切り拓く道徳教育～道徳的価値を深める「考え、議論する」道徳授業の実践～
2	特別活動 (進路指導)	11月2日(水)	三観	観音寺市立豊浜中学校	県	未来を見つめ、自己の生き方を主体的に選択できる生徒の育成
3	生徒指導	11月2日(水)	高松	高松市立香川第一中学校	県	「自他のよさを認め、主体的に未来を切り拓く集団づくり」～みんなが楽しいと思える学校づくりを基盤とした生徒指導の推進～
4	メディア 教育	11月2日(水)	高松	高松市立屋島中学校	県	誰一人取り残さない教育の実現をめざして —ICT活用の日常化を通じた教育活動の充実—
5	人権・ 同和教育	11月2日(水)	高松	高松市立香東中学校	四国	自他のよさや違いを認め、高め合えるなかまとともに主体的に行動する生徒の育成 —自分づくり活動となかまづくり活動を基盤とした学習の場の工夫を通して—
6	学校 図書館	11月2日(水)	小さ東	白鳥小中学校	県	豊かな心と学ぶ力を育てる図書館教育 ～人・本・情報とつなげる読書活動～
7	教育相談	11月2日(水)	高松	高松市立太田中学校	県	学校の教育力を高める組織的な教育相談体制づくりと教育相談の充実
8	特別支援 教育	11月2日(水)	三観	三豊市立詫間中学校	県	長期的な視野に立ち、共に生き共に高め合う特別支援教育をめざして
9	学校事務	11月2日(水)	高松	各学校 (オンライン開催)	県	“教育ビジョン実現に向けて 未来をひらく学校事務の挑戦”
10	学校給食	11月2日(水)	高松	高松市立塩江中学校	県	すこやかな心身と豊かな人間性をはぐくむ食育の在り方～学校給食を活用し、 「新たな日常」の中で健全な食生活を実践できる生徒の育成をめざして～

### ■ 令和5年度研究大会

番号	部会名	期日	郡市	会場校	規模	大会主題
1	国語	11月9日(木)～ 11月10日(金)	三観	三豊市立高瀬中学校 観音寺市立中部中学校	全国	大会主題は、各部会が中心となり、会場校とも協議しながら、少なくとも1年前までには決定し、事務長が事務局長に報告する。
2	数学	11月9日(木)～ 11月10日(金)	丸仲善	丸亀市綾歌総合文化会館アレックス 丸亀市立西中学校	中四国 (小中高大)	
3	理科	11月第1週の 統一日に開催 する。	高松	高松市立協和中学校 高松市立山田中学校	県	
4	音楽		小さ東	東かがわ市立白鳥中学校	県	
5	美術		丸仲善	丸亀市立南中学校	県	
6	保健体育		三観	三豊市観音寺市学校組合 立三豊中学校	県	
7	技術・家庭		小・さ・東	未定	県	
8	英語		坂綾	坂出市立東部中学校 坂出市立白峰中学校 宇多津町立宇多津中学校	県	
9	養護		高松	香川県教育センター(仮)	県	
10	へき地 教育		丸・坂・ 三観	観音寺市立伊吹小中学校	県	

## Ⅲ 研究報告

### 1 研究大会を実施した部会

## グローバル社会に求められる英語教育のあり方

～ 主体的・対話的で深い学びを実現する英語の授業を旨として ～

英語教育研究部会

### 1 研究主題について

グローバル社会において、異文化理解や異文化間コミュニケーションはますます重要になり、国際共通語と言われる英語力の向上は、子どもたちにとって不可欠であると考えられる。

そこで、英語部会では、学習指導要領に示された新しい時代に求められている資質・能力の育成を旨とした英語教育のあり方を主題とし、次の3つの内容を柱として研究を進めた。

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」を旨とした授業改善
- (2) CAN-DOリストの効果的な活用
- (3) 小学校英語とのつながりを意識した言語活動の工夫

授業を「主体的・対話的で深い学び」の視点で見直すとともに、生徒の実態に即した目標の設定と指導・評価方法の工夫・改善を図った。また、すでに教科化された小学校英語の学習内容を正確に把握し、小・中のスムーズな接続を旨とした。

### 2 研究の概要（及び大会内容）

#### (1) 香中研英語部会研究大会

香川県英語教育研究会秋季研修会並びに香川県中学校教育研究会英語部会研究大会が、11月5日（金）にレクザムホールにて開催された。本大会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、第44回四国英語教育研究大会が中止となり、香中研英語部会研究大会として県内の高等学校と中学校の英語科教員を対象に開催された。「グローバル社会において未来を切り拓く力を育成する英語教育を旨として」のテーマのもと、中学校と高等学校それぞれの実践を紹介していただいた。中学

校、高等学校ともに、①「話すこと」の指導とルーブリックを用いた評価、②「学びに向かう力・人間性等」の評価、③ICTの有効活用の3つを視点とした提案であった。

また、本大会は2～5経の若年教員を対象とした若年研修会と兼ねており、当日は、若年教員を含む県内英語科教員等約120名が参加し、大変充実した研究大会となった。

授業実演は、事前に各校で撮影された授業の映像を視聴する形式で行われた。

#### ① 授業実演

##### 【授業実演Ⅰ】

授業者：小柳 昌弘 氏

（高松市立勝賀中学校）

単 元：Unit 6 Research Your Topic

（第2学年）

本時の目標：(a) 外国人に香川県の特産品やそれを作る人の想いを伝えるために、英語で積極的に発表することができる。

(b) 紹介文でよく使われている英語の表現を用いて、効果的に相手に説明したり質問に答えたりすることができる。



授業者による授業説明

## 【授業実演Ⅱ】

授業者：大河 鷹 氏

(香川県立観音寺第一高等学校)

単 元：Lesson 6 Roots & Shoots

(第1学年)

本時の目標：(a) 自分の進路や将来についてペアで質問しあう。

(b) パフォーマンステストに向けての改善策を考える。



授業者による授業説明



質疑応答の場面

## 3 成果と課題

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、夏季研修会をはじめとする研修会や大会の中止・実施方法の変更を余儀なくされた。しかし、このような状況下で、研究大会を開催でき、貴重な研修の場を確保できたことは一つの成果と思われる。多くの制約や条件が重なる中、提案性に富む授業実践を紹介していただき、大変有意義な研究大会となった。

中学校の実践からは、「話すこと」の「やりとり」、「発表」それぞれに対して客観性のある評価の手立てについて学ぶことができた。高等学校の実践においては、生徒がICT機器を用いて自分自身の課題を把握し、ペアでの活動を通して自らの学習を調整・改善していく場面が紹介され、ICT機器の効果的な活用の具体を知ることができた。中学・高校どちらの授業においても、単元の評価基準が明確に示され、それについて生徒と教師が共通の認識をもって授業やそれぞれの活動に臨んでおり、学ぶところの多い実践であった。

参加者からは、今回のように高等学校の授業実践について知る機会や高等学校の英語科教員と情報交換を行う場をさらに増やしてほしいという要望が多く寄せられた。いただいたアンケート結果を参考にしながら、研修会の実施方法の工夫や研修内容の一層の充実を目指していきたい。

### ② 質疑応答

指導・助言：竹中 龍範 氏

(前 香川大学教育学部 教授)

### ③ 全体講評

義務教育課主任指導主事 坂本 幸治 氏

高校教育課主任指導主事 笠井真希子 氏

### (2) 若年研修会

11月5日の香中研英語部会研究大会と兼ねて開催され、県内の若年教員23名が参加した。質疑応答の場面では、生徒のパフォーマンス活動に対していつどのように評価を行っているのか、本時の場合はどこで何を評価したのか、という質問があった。とりわけ、中学校から高等学校への接続に関する質問が多くあがった。研修後のアンケートでは、小・中の接続だけでなく、中・高の接続を意識して、高等学校の学習内容や授業の具体を十分に把握した上で授業を再構築しなければならない、という意見も寄せられた。

## 生きてはたらく確かな言葉の力を育む国語教室の創造

### — 主体的・対話的で深い学びを実現するための指導と評価の在り方 —

国語教育研究部会

#### 1 研究主題について

令和元年度に高松市立古高松中学校で開催された四国大会の研究成果を継承しつつ、また、令和5年度に三豊・観音寺支部で開催される全国大会に向けて各郡市と連携して共通テーマで研究を進めていくこととし、本主題を昨年度から継続し設定した。また、副主題については、本年度より全面実施となった新学習指導要領における指導と評価の在り方を県下の国語科教員で研究していきたいと考え設定した。

#### 2 研究の概要

本年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、夏季研修会をはじめ様々な研修活動が中止となった。しかし、VTRを用いた授業研究会や、新学習指導要領における評価の在り方に関する研修会等各支部や若年研修部会において開催され、県下の国語科教員が研鑽を深める場となった。

##### (1) 研究委員会

これまでの研究を引き継ぎ、三観支部を核に研究の方向性と具体的な授業について協議・検討を重ねた。

##### (2) 夏季研修会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

##### (3) 若年研究部会

令和3年10月26日（火）香川大学教育学部附属坂出中学校において2～4経教員を対象とした若年研修会を開催した。

##### ① 公開授業（VTRによる）

授業者：木村 香織（附属坂出中）

題材：「落葉松」（北原 白秋）

##### ② 授業討議会

経験年数・勤務地区の異なる教員で小グループを編成し、授業討議を行った。

##### ③ 指導・助言

指導者 善通寺市立西中学校 校長  
小林 理昭 先生

公開授業についての指導や教材研究の進め方や方法など、これまでの実践等を交えながらご指導いただいた。

##### ④ 個人課題の共有・検討

若年研修部員がそれぞれの課題や研究テーマ、実践等を持ち寄り共有や検討を行った。本年度より全面実施となった新学習指導要領における評価を国語科としてどのように行っているか、また教科書改訂に伴う新教材を各学校においてどのように実践しているのか、など幅広い視点で意見交流が行われた。

##### (4) 各支部における教科研修会

今年度も、各支部における教科研修会は規模の縮小を余儀なくされたが、オンラインによる授業研究会など、各支部で工夫を凝らした研修会が開催された。制限等はあったものの各支部が研鑽を深めるとともに、今後の研究の在り方について共有する場となった。

#### 3 成果と課題

「主体的・対話的で深い学び」、「評価」を核として、生徒が意欲をもって学習に取り組むための国語科学習指導をどう行っていくかについて、昨年度に引き続き研修が深められた。今期の実践をここでとどめるのではなく来年度、そしてさらに令和5年度に行われる全国大会（三観支部）への基盤とし、今後も質の高い研修と研究を進め、県全体の授業改善と指導力の向上を図っていきたい。

# 未来社会につなぐ社会認識の構築

## ～ 授業力の継承、そして創造 ～

社会科教育研究部会

### 1 研究主題について

社会科部会における本研究主題は、平成23年に起きた東日本大震災を教訓として、平成24年度の全国中学校社会科研究大会香川大会（以下、全中社香川大会）で設定されたものである。未来社会の課題について、ただ内容を知っておくだけではなく、その課題をしっかりと認識し、より安全で誰もが幸福になれる社会をつくらうとする意思を持つ生徒を育成することが教育には求められている。そこで、社会科において、社会認識をしっかりと深める授業実践を継続的に行う必要があると考え、全中社香川大会の研究主題を引き継いでいる。

### 2 研究の概要及び大会内容

#### (1) 研究の概要

教員の授業力の向上を図る研究を継続しながら、研究部会の分け方を三分野（地理的分野、歴史的分野、公民的分野）に発展的に改善する。本年度の研究項目として、社会科授業力を統合した深い学びの実現をめざす。その中で、概念探究過程または意思決定過程の学習指導過程を核とした授業実践をし、社会認識の構築、言い換えれば深い学びの実現を図っていく。

#### (2) 香川県小中学校総合文化祭社会科自由研究発表会

本年度は一昨年度までとは異なる発表会の形式を採用した。会場内での密を避けるため、発表校ごとに集合時間を変更し、集合時間は自校の発表の30分前とした。発表後は指導者の先生方からの指導・講評を頂き、他校の発表は聞かずに退出することとした。この結果、会場内の密を避けられただけでなく、例年よりも指導者からの指導・講評の時間を長くとることができ、発表者にとって充実し

た時間となった。

他校の発表を聞く時間があまり取れなかったことが課題となったが、コロナ禍での開催という観点で考えると今回の形式が妥当と考える。



[発表の様子]

#### (3) 若年研究部会

主に2～4経教員を対象に、附属坂出中での授業研究会を行った。附属高松中学校の小野智史先生の授業VTRを視聴後、各グループに分かれて討議会を行った。若年教員による活発な話し合いが行われた。



[授業討議会の様子]

### 3 成果と課題

昨年度に引き続き、コロナ禍で夏季研修会を開催することができなかったが、昨年度開催できなかった社会科自由研究発表会を開催することができたのは大きな成果であった。

しかし、依然として集合での研修が難しく、授業づくりについて他校の教員と語り合う時間が従来に比べてほとんど取れていない。授業力の継承のため、多くの研修の場を持てるかが今後の課題である。

# 数学的に考える資質・能力を育成する数学教育の展開

数学教育研究部会

## 1 研究主題について

数学の知識を獲得するだけでなく、事象を数学的に捉え、考えることのできる生徒の育成を目標として主題を設定した。今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため夏季研修会を行うことができなかった。しかし、昨年度の反省を踏まえた上で、感染症対策を行い工夫しながら若年研修会や各支部での研修会を実施することができた。支部ごとの研修会では、昨年度の研究成果と課題をふまえた研究テーマを設定し、授業改善を中心とした研究に取り組んだ。

## 2 研究の概要

### (1) 各支部の取組

[高松] - ICTを活用した授業の工夫 - 数学的に考える資質・能力の育成のために生徒用PCや電子黒板等のICT機器を授業で効果的に活用するためにはどのようにすればよいのかについての研究を進めた。

[丸亀] - 学びの楽しさを実感し、主体的に学習に取り組む生徒の育成 - 生徒の思考の流れを大切にしながら学習を進め、「統合的・発展的」に考察する力を育成することができるような授業実践について研究を進めた。

[坂出・綾歌] - 批判的に考察し判断できる力を育む授業実践 - 自己の思考を振り返ったり、学び合いをしたりする中で、主張の根拠を批判的に考察し、適切に判断する力の育成することができるような授業実践について研究を進めた。

[小豆] - 表現力を育む学び合いの場の工夫 - ICT機器を用いた主体的・対話的で深い学びの実現に向けての授業実践について研究を進めた。

[さぬき・東かがわ] - 話し合いの場を設けた授業の工夫 - 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るために、授業で話し合いの場を意図的に活用することについての研究を進めた。

[仲多度・善通寺] - 授業力向上を目ざして - 図形領域において、教師の関わりがどのように生徒の理解や数学的な表現力等につながっていくのかの研究を進めた。

[三豊・観音寺] 「生徒が主体的に取り組む授業づくり」 - 関数領域における数学的活動の充実を目指して - 関数領域において、「見通しと振り返り」の充実を図ることで、生徒が主体的に学習に取り組めるような授業づくりについての研究を進めた。

### (2) 若年研修会

10月に香川大学教育学部附属坂出中学校で若年研修会が行われ、今年度に行われた第2年の一次関数の単元での授業録画を視聴し、参加者が作成してきた指導案との比較を含めた討議を行った。授業作りにおいて大切にしなければならない3つの視点から考えることができ、今後の授業作りへの参考になったとの声が聞かれた。その後、香川県教育センター主任指導主事の山下司先生に講話をいただいた。視聴した授業と関連させながら、学習指導要領に書かれてある育成すべき資質・能力についてお話しいただき、非常に示唆に富んだ内容であった。

## 3 成果と課題

課題設定や教員のアプローチの工夫等を通して、数学的に考える資質・能力の育成の研究を進めてきた。今年度も県全体で行う研修や各支部の研修は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったものや縮小して行われたもの等あったが、先生方の工夫で研究を進めることができた。数学的な資質・能力の育成を図っていくために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けたICT機器の有効な活用方法や振り返りの方法等授業改善を進めていくことが今後も必要である。できることから実践、または継続しながら、授業研究や若年教員研修の充実に努めていきたい。



# 理科の見方・考え方を働かせて資質・能力を育み、豊かな未来を切り拓く理科教育

理科教育研究部会

## 1 研究主題について

時代の変化に伴い、現代の学校教育には、子どもたちが様々な変化に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることなどが求められている。また、国際調査において、日本の生徒の、理科が「役に立つ」、「楽しい」との回答が国際平均より低く、「結果を分析した上で、解釈・考察し、説明すること」などの資質・能力に課題が見られることが明らかになっている。

このような状況を受け、学習指導要領では、資質・能力を育成するために、「見方・考え方」を働かせることや「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を推進していくことが求められている。

理科においては、課題の発見、追究、解決といった探究の過程を通じた学習活動を行うことが重要であり、それぞれの過程において、どのような「見方・考え方」を働かせ、資質・能力を身に付けることを目指すのかを明確にし、指導の改善を図ることが必要である。このような改善を行うことにより、生徒は理科の面白さや有用性を実感することができる。そして、そのような実感をとまなう学びを積み重ねることが、未来を切り拓く力の育成につながると考えた。

これらのことを踏まえて、上記の研究主題のもと、さらに研究を推進していくこととした。

## 2 研究の概要

### (1) 高松大会（令和5年度）に向けて

令和5年度高松大会（県大会）に向けて、研究主題を踏まえて、次のような大会主題を設定し、研究実践を積み重ねていくこととした。

#### ＜大会主題＞

科学的に探究する活動の充実をめざした理科教育

この大会主題のもと、次のような研究仮説を立て、「教育課程」「学習・評価」「観察・実験」

「環境教育」の4領域で研究を進めた。

#### ＜研究仮説＞

教員一人一人が自分の理科教育を「科学的に探究する」という視点を基に批判的思考で捉え、改善することで、生徒の科学的に探究するために必要な資質・能力がより良く育成されるであろう。

### (2) 若年研修会

期 日 令和3年10月1日（金）

場 所 多度津町立多度津中学校（リモート開催）

授業者 小滝 武志

単元名 「運動とエネルギー」

内 容 リモートでの授業参観および授業討議

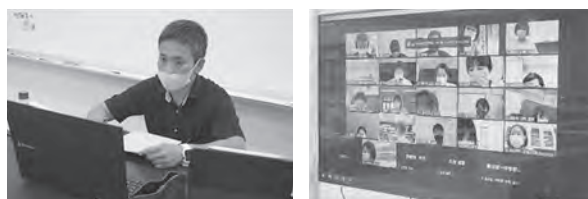


図 リモートでの説明および参観者のようす

授業参観、授業討議では、主体的な学びを生み出すための問いやICTの活用の仕方などについて、授業での具体的な姿をもとに研修を深めることができた。また、少人数での話し合いの場を設定することで、指導方法や教材研究についての意見交換を行うことができた。

## 3 成果と課題

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、夏季研修会が中止となり、県全体で研究を推し進めていくことが難しかった。その反面、各郡市では自分たちの今までの研究を見直し、これからの研究の方向性を考える機会になった。また、若年研修会をリモートで開催し、新たな研修の在り方を模索することができた。

来年度は、今年度培ったノウハウを活用し、令和5年度の研究大会に向けた研究を進めていきたい。

# 音楽を通して人や社会と豊かなにつながる生徒の育成

— 「音楽的な見方・考え方」を働かせた学びの実現を目指して —

音楽教育研究部会

## 1 研究主題について

今年度から全面実施となった学習指導要領改訂の趣旨をふまえ、音楽科の「学習と社会をつなぐもの」とされる「音楽的な見方・考え方」に着目し、研究を進めてきた。生徒が音楽との関わりをより豊かなものとしてほしいとの願いから主題を設定した。「音楽を通して社会と豊かなにつながる」とは、音楽活動によって得られたよこびや感動をなかまと共有する体験を積み重ね、音楽科の学習をより深く味わうことをさす。以下の3つの研究の視点を軸とし、鑑賞領域での実践を表現領域に広げるとともに、授業において生徒がなかまと共有したことや新たに習得した知識を活用して学びを深めたり、自分と音楽との関わりを価値あるものとしたりする点に重点を置き、研究を行った。

## 2 研究の概要

### (1) 研究の視点

#### ① 学習内容の焦点化

「音楽を形づくっている要素」を知覚し、感受しやすい教材を選択し、具体的にどの場面でどのような「音楽的な見方・考え方」を働かせるのかを明確にして教材分析を行う必要がある。

題材の目標や生徒の実態と照らし合わせ学習内容を焦点化し、3年間の学習を見据えた題材を設定する。

#### ② 音楽に対する価値意識を構築する「比較」の取組

いくつかの音楽を比較しながら学びを深めることは、新たな気づきを引き出すだけでなく既習の音楽と比較対象の音楽との価値意識を問いやすくし、それぞれの価値を再考することにつながる。生徒が「それぞれの音楽表現の共通性や固有性」を見出し、「音楽的な見方・考え方」を働かせやすくするために、指導のねらいを実現するのにふさわしい比較対象教材を生徒の実態

に応じて精選し提示することが重要である。

#### ③ ICTを活用した学習・指導の工夫

子どもたちの能力や特性に応じた個別学習や、子どもたち同士が学び合う協働学習の場面において、主体的な学びを実現するためにタブレット端末は効果的である。表現の分野では自分の演奏を客観的に振り返ったり、他者の音楽表現と聴き比べたりして、よりよい音楽につなげる活動が可能である。また、鑑賞の分野では生徒が部分聴取を繰り返したり、音楽を介してなかまと考えを交流したりして楽曲と向き合う活動が考えられる。

生徒が実感を伴いながら音楽のよさや美しさを味わい、「音楽的な見方・考え方」を働かせた学びを実現するために、今後も効果的な活用を模索していく必要がある。

#### (2) 若年研修

本年度は、香川県教育センター教職員研修課 主任指導主事 藤原由宜先生を講師に迎え、新学習指導要領、学習評価についてのご講演と授業づくりに向けての演習を実施した。

## 3 成果と課題

昨年度の鑑賞領域での実践の成果と課題をふまえ、表現領域において、生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせた歌唱表現を行うための授業の構築に向けて実践を積み重ねた。研究主題である「音楽を通して人や社会と豊かなにつながる生徒の育成」を実現するためには、「音楽的な見方・考え方」を生徒が働かせている場面を具体的にイメージし、生徒が「主語」になる授業づくりをしていくことが求められる。全面実施となった学習指導要領、3観点の学習評価への理解をさらに深め、3つの視点を生かし今後も研究を推進していきたい。

# 生活を美しく豊かにする美術の学び

～ 生徒の意欲を引き出す美術の授業づくりをめざして ～

美術教育研究部会

## 1 研究主題について

美術部会では、研究主題を「生活を美しく豊かにする美術の学び～生徒の意欲を引き出す美術の授業づくりをめざして～」と設定し、思いを大切に、主体的に取り組む生徒、自ら考え自らを表現することの喜びを感受できる生徒の育成を図る。そのために、表現や鑑賞の幅広い造形活動を通して、創造する楽しさを味わわせ、自分らしい見方や感じ方を尊重させ、美術を愛好する心を育てたい。美術の学びが、豊かな感性を育み、よりよい生活を創造していくことにつながると考え、授業改善を中心とした研究に取り組んだ。

研究の重点課題は次の3点である。

- (1) 生活と美術をつなぐ教材の開発
- (2) 創造的な発想・構想力を身に付けさせる指導の工夫
- (3) 形成的評価を生かした指導の工夫

## 2 研究の概要

### (1) 実践の概要

#### ① 各支部での実践研究

研究テーマを受け、各郡市支部で支部テーマを設定し、実践研究を行った。その成果は第2回代議員・研究主任会（令和4年1月23日）における研究発表で県内の共有を図った。

#### ② 令和5年度県大会に向けて研究協議

次回県大会に向け、担当地区となる丸亀支部、県研究部長を中心に、大会研究主題について研究協議を行なった。研究主題については、令和4年度第1回代議員・研究主任会にて提案の予定である。

### (2) 若年研修会

11月18日（木）附属坂出中学校

#### ① 授業実践参観（録画）

学年 1年生 題材名「暮らしの道具」

### 第3時 火焰型土器の鑑賞

授業者 渡邊洋往 附属坂出中学校

附属坂出中学校で取り組んでいる「ものがたりの授業」、美術科で取り組んでいる「作品をもとにした対話」の場面を参観し、意見交換、質疑応答を行なった。

#### ② 授業改善研修 「つきたい力と学習評価」

##### ア ルーブリックとパフォーマンス評価

参考文献：「資質・能力を育てるパフォーマンス評価」2016/西岡加名恵/明治図書

##### イ 授業実践と文献をもとにルーブリックづくり（グループ）

実践事例：「つまみ人形」（附属坂出中学校）

##### ウ グループごとに発表、質疑応答

参考文献をもとに、ルーブリックの活用とパフォーマンス評価について研修し、実際の授業と作品をルーブリック表を作成して評価する演習を行なった。評価基準となるルーブリックを作成することで、授業におけるつきたい力を明確化して単元構成を行うこと、具体的な評価基準を設定して生徒の成果物を評価できることを確認した。

## 3 成果と課題

### (1) 成果

若年研修や各支部研究報告では、新学習指導要領において3観点に整理、統合された評価を意識し、題材ありきではなく、つきたい力を明確化して単元構成を行うことを意識した報告や発言が多く見られた。

### (2) 課題

学びを深める手立てとして「問い」の重要性を指摘する報告が見られたが、実践例、研究報告が少なく、美術科における「問い」に関する研究はこれから充実させていく必要がある。

# 健康の保持増進と豊かなスポーツライフを実現する 保健体育学習の創造

保健体育教育研究部会

## 1 研究主題について

社会がいかに変化しようとも、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するためには、自他の運動や健康についての課題を自ら発見したり、課題解決の道筋を立て解決に向けて取り組んだりでき、そして一人一人が運動や健康の価値を見出していくことが大切である。すべての生徒が学ぶ意義を実感できる保健体育学習をめざして、本教科の在り方を問い直す。

## 2 研究の概要

### 【若年者研修会について】

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により集合研修が中止となったため、代替措置としてHPにて指導案の掲載等を行った。高松市立一宮中学校にて、保健分野、体育分野それぞれの実践を行った。指導案検討では、関伸夫先生、横嶋剛先生（国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官）に指導と評価の一体化の観点からご指導をいただいた。

### 【各支部の研究の概要について】

支 部	研究の概要
小豆	小豆支部の課題として、運動の二極化があげられる。すべての生徒が運動に親しみ、生涯を通して運動に関わろうとする態度を育てていくために、なかまとの言語活動やICT機器の効果的な利用をすることで運動への意欲を高められるように研究を進めた。
さぬき 東かがわ	これまでの研究を継続するとともに、「学び合いを充実させるための工夫」「ルーブリック評価の工夫」「効果的な振り返り」の3つに重点を置き授業を行った。今後、更に生徒同士が主体的に学び合い、高め合えるように研究・工夫に努めたい。
高松	すべての生徒が学びを実感できるようにするため、3つの対話（教材との対話・自己との対話・他者との対話）を踏まえた授業づくりを実践した。自分やチームの動画分析、見本動画との比較等により対話がなされていたが、3つの対話を充実させるためのICT機器の活用方法について、さらに今後研究を進めていきたい。
坂出 綾歌	「なかま同士の関わり合い」に着目し、生徒の学びへの積極的関与を促し、より深い学びへと導く指導のあり方について研究を進めることとした。生徒一人ひとりが主体的な学びの中で基礎・基本を習得し、協働的な学びの中で、自己有用感や運動の楽しさ、価値を実感することができる保健体育学習をめざして研究を進めた。
丸亀	生徒が発する「なぜ」を大切にし、その疑問を解決するための課題を提示することで、生徒の主体性を引き出し、意欲的に活動できるのではないかと考え研究を行った。今後も課題を解決するために、仲間と協力して意見を出し合ったり、運動を見せ合ったりする経験を大切にしたい授業づくりを進めていきたい。
仲多度 善通寺	男女共習の授業の在り方について、積極的に男女混合のグループを編成し、「学び合い」「教え合う」の場面を設定したことで、性差を越えて交流し合う場面が随所に見られた。また、ICT機器を活用して、自分自身やなかまの動きを客観的に観察し、感覚や意見、思いを相手に伝え合う「言語活動」も活発になった。
三豊 観音寺	今年度は「発問」を工夫した学習過程とより良い振り返りによって、生徒の「見方・考え方をどう深めるか」という内容の研究を行った。また、ICTを活用し客観的に自己評価をしたり深い学びに繋げたりすることができた。

# 社会の変化に主体的に対応し、よりよい生活を工夫する技術・家庭科教育

## — 問題解決的な学習の質を高める指導法の工夫と評価の在り方 —

技術・家庭科教育研究部会

### 1 研究主題について

平成29年3月に学習指導要領が改訂され、本年度からいよいよ全面実施となった。技術・家庭科の目標も見直され、教科特有の見方・考え方を働かせて、生活を工夫し創造する資質・能力の育成につなげることが求められている。評価についても、4観点から3観点到整理され、評価の在り方や方法が今後の課題である。

そこで、研究主題を「社会の変化に主体的に対応し、よりよい生活を工夫する技術・家庭科教育—問題解決的な学習の質を高める指導法の工夫と評価の在り方—」として研究を進めることとした。

### 2 研究の概要

今年から導入される新しい評価方法について、国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 技術・家庭』、「学習評価の在り方ハンドブック」を参考に、以下のような手順で研究を進め、昨年と同様に郡市ごとに実践事例をまとめた。

#### 手順1 題材の検討

学習指導要領の規定や解説を参考に生徒の発達段階に応じて、履修学年・授業時数を定める。内容のまとまりとして、どの項目を指導するか考える。

#### 手順2 題材の目標の設定

分野の目標や題材で指導する指導事項を整理・統合したうえで、履修学年や授業時数を踏まえて設定する。

#### 手順3 題材の評価規準の設定

分野の評価の観点の趣旨をもとに「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を参考に設定する。

手順4 内容のまとまりごとの評価規準の作成  
題材の評価規準をもとに、内容のまとまりごとの評価規準を作成する。

#### 手順5 題材の評価規準の具体化

適切な時点で適切な評価をするために、題材の評価規準を学習活動に即して具体化する。作成した評価規準をもとに評価方法や時期の検討や実践を行う。

#### 【研修会】

本年度の機関誌に掲載する研究成果のまとめのために、各地区において校内での研究授業の報告や、評価についての実践資料などを持ち寄り、今後の県全体の研究につながるよう、研究討議や質疑応答を行った。

#### 【若年研修】

附属中学校での実践や参加者の各中学校での実践や課題を報告し合ったり、県教育センター指導主事や部会長からのご指導をいただいたりして若年教員の授業力向上に努めた。

### 3 成果と課題

研究を進めたことで、学習指導要領を読み解き、共通理解を図りながら各地区や県全体で研究が進んでいったと感じている。

評価については、今後も、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を通して、指導と評価の一体化を図る必要がある。特に、観点Ⅱ「思考・判断・表現」、観点Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」について、評価の在り方や方法について、来年度も継続して研究を進めたい。

# 養護教諭の専門性の深化をめざして

## — チーム学校での養護教諭の役割をさぐる —

養護研究部会

### 1 研究主題について

急速な情報化や多様化した社会情勢、世界規模での感染症蔓延の中で、生徒が自らの健康課題に適切に対応する力を育てるためにはチーム学校として多種多様な職種が連携して組織で生徒にかかわることが求められる。

養護教諭は、学校保健の推進において専門職として中核的な役割を担うと期待されている。しかし、学校内で一人配置であることが多い。

そこで、個々の専門職としての能力を高めること、チームで協働するためのコーディネートを培うことが専門性の深化につながると考え、本主題を設定した。

### 2 研究の概要

- (1) 高松支部—チーム学校での養護教諭の役割をさぐる—生徒理解と執務改善の2班編制で研究に取り組んでいる。生徒対応の事例や執務内容、健康教育について個々に整理・分析・考察したものを持ち寄り、意見交換を通して共有・可視化した。
- (2) 坂出・綾歌支部—チーム学校での養護実践を求めて—小児生活習慣病予防検診について、医師会や保健師・学校医など様々な関係職種と連携した取組や感染症予防対策を講じた実践、資料の活用について紙面で交流した。
- (3) 丸亀支部—時代の変化に対応した養護実践を求めて—「睡眠リーフレット」を作成して睡眠指導を実施したり、「救護サポートファイル」を見直したりして、昨年度までの実践に感染症対策を取り入れながら継続して研究に取り組んでいる。
- (4) 仲多度・善通寺支部—チーム学校での養護教諭の役割をさぐる—学校行事実施のための効果的な感染症予防対策と養護教諭の役割について研究に取り組んでいる。指導主事の講

話や実践交流により、生徒が陽性と判明した際の対応についてイメージを持つことができた。安心して準備や対策を考えることができた。

- (5) 三豊・観音寺支部—時代の変化に対応した養護実践を考える—養護診断とメンタルヘルスの2班編制での研修を軸に、グループ間交流も図りながら研究を進めている。「保健室来室者アセスメントシート」を作成し、見直しながらか活用したり、生徒のメンタルヘルスの訴えとそれに対する対応事例をもとに意見交換を行ったりした。
- (6) さぬき・東かがわ支部—多様化する健康課題に対応した養護教諭の実践力の向上—小児生活習慣病予防検診について、共通の課題を明確にし、専門家の講話や資料・教材を共有し協議することにより、課題解決に向けてのより良いアプローチについて研究している。
- (7) 小豆支部—時代の変化に応じた養護教諭の役割をさぐる—小児生活習慣病予防について継続的に取り組み、さらに、スマホ・ゲーム依存症やICT研修も取り入れて、生徒の一人一台タブレットに対応した執務のあり方や学校保健活動の研究もすすめた。

### 3 成果と課題

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、研修の形態も変化して多様になった。一人配置がほとんどの養護教諭にとって、直接顔を合わせて研修する機会は貴重であり有益である。

今年度は、各支部でこれまでの実践を感染症予防対策の視点を加えて見直しながらか研究をすすめた。

今後も、刻々と変化する状況の中での学校保健活動推進における養護教諭の専門性について研究を深めていきたい。

# 豊かな心を育て、共に未来を切り拓く道徳教育

道徳教育研究部会

## 1 研究主題について

常に目まぐるしく変化し続ける社会情勢の中で、現代の子どもたちが乗り越えなければならぬ課題が新たに発生している。新しい生活様式を取り入れての学校生活やSNSをはじめとするインターネットの安全な利用、自然災害への予防と対策などの課題は、自信の欠如や将来への不安といった子どもたちの心の成長に大きな影響を与える。

香川県の道徳教育では、前述したような課題を念頭に置きつつ、平成10年の学習指導要領改訂から加わった「豊かな心」と「未来を切り拓く」という言葉を普遍的なものとして大切に、本主題を設定している。これからの道徳教育では、子どもたちが夢や希望を持って、他者と協働し未来を切り拓き、人としてよりよく生きようとする力が育成されるよう、一層の充実が求められている。

## 2 研究の概要

本年度も、新型コロナウイルス感染症対策のため、県規模での研究大会や公開授業が開催できなかった。そのため、昨年度に引き続き令和4年度に県大会の開催校となっている善通寺市立西中学校の取組を記載する。

○研究推進の内容及び方法

### ① 道徳教育の充実を促す指導体制

- ア 3つのプロジェクト（教材・連携・環境）及び、学年ごとのチーフによる指導体制の充実（チームで取り組む姿勢）
- イ 教科を横断する全体計画、年間計画、別葉の作成
- ウ 道徳教育に関する校内研修・指導案検討会の実施（授業力向上）
- エ 全職員による朝道徳の資料作成（ローテーション朝道徳）

- ② 道徳的価値について多面的・多角的に考えさせる授業づくり【教材プロジェクト】
  - ア 教材への自我関与の意識を高める問題解決的な道徳学習（道徳的価値の理解を深めるための指導方法の改善）
  - イ 中心発問の改善（時間・対象・条件・本質軸を変えた発問と問い返し）
  - ウ 振り返りの充実（内省的思考へと導く視点の改善、アウトプットできる場の設定）
- ③ 家庭・地域との連携・協力【連携プロジェクト】
  - ア 道徳通信の発行（家庭や地域への情報発信：月1回程度）
  - イ 地域とつながる道徳（地域人材をゲストティーチャーに迎えた授業・保護者参加型の授業）
- ④ 学校内における道徳に関する支持的風土づくり【環境プロジェクト】
  - ア 朝道徳や授業風景の記録及び共有環境の整備
  - イ 道徳的価値を深める掲示の作成

## 3 成果と課題

善通寺市立西中学校では、これまで継続して道徳教育の推進を行ってきた結果、令和2年度の県学習状況調査における生徒質問紙の社会性・道徳性に関わる質問項目では、肯定的な回答がおおむね県平均を超えた。しかし、将来の夢や自己肯定感に関する項目では肯定的な回答は県平均を下回る結果となった。

校内指導体制の見直しによる、授業及び教育活動全体を通じた道徳教育の更なる推進により、人としての在り方、生き方について、多面的・多角的に考えさせる指導方法を模索し教育目標を実現したいと考える。

# 未来を見つめ、自己の生き方を主体的に選択できる生徒の育成

特別活動研究部会

## 1 研究主題について

学習指導要領の改訂により「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱で目標が再整理され、特別活動においてもこれまでの目標、内容の示し方が大きく変化している。このような改訂や変更はあったが、基本的な考え方は継承されており、特別活動における「何ができるようになるか」については①社会参画、②人間関係形成、③自己実現という三つのキーワードをもとに、育成を目指す資質・能力がまとめられた。

これらを踏まえ、本部会では、昨年度より「未来を見つめ、自己の生き方を主体的に選択できる生徒の育成」という研究主題を設定した。具体的には「合意形成」「意思決定」を含む学習過程の実践を目指し、生徒が集団をまとめる方法を身に付け、集団生活の価値を見いだしたり、他者を尊重し、認め合いながら協働する方策を探ったりすることや、特別活動を学校教育全体を通じて行う「キャリア教育」を要として行うものと考え、体験した学びを、キャリアパスポートを活用し、今後の自己の態度や将来の目標に向けての自己実現に反映させることを目指している。

## 2 研究の概要

本年度も昨年度と同様に新型コロナウイルス感染防止のために夏季研修会は中止となり、各支部での研修が主となった。ここでは三観地区の理事・主任研修会を例にとりあげる。三観支部の研究内容は以下の通りである。

- ・ 「合意形成」「意思決定」を含む学習過程の実践
- ・ キャリアパスポートを活用し、各教科・道徳科及び総合的な学習の時間との連携を意識した特別活動の工夫
- ・ 人間関係形成、社会参画、自己実現に視点をあてた特別活動

昨年度同様に、これらに関する取組について、それぞれ意見交流を行った。その中の2校の取組を紹介する。

### (1) 観音寺市立大野原中学校の取組

大野原中学校では防災教育の観点から、万が一災害が起こった時に、自分の判断で避難できる力や行動できる力を育成するため、「防災訓練」の在り方を、生徒会役員を中心として改訂した。複数のパターンの避難経路を設定し、どこで火災が起こるかは当日までは伏せておく。また避難経路に様々な障害物を置いたり、実際に防火扉をとじたりして、より現実に近い形で避難訓練を行った。

### (2) 観音寺市立豊浜中学校の取組

豊浜中学校では生徒の主体性を育成するために生徒会役員に「企画書」を配布し、自分がやってみたい行事などを企画できるようにした。出てきた企画書は生徒会役員会で検討し、職員の企画会に提案した。「朝のボランティア清掃」や「自習教室」「医療従事者へのメッセージカード作成」などが実現できた。また、次年度、さらに改良した形で行えるように活動の事後反省を行ったり、企画会の段階で再検討が必要と判断されたものについては、再度検討を加えたりした。

活動の周知、準備、片付けをできるだけ生徒に任せ、教員は提案者を手伝うというスタンスを意識して取り組んだ。新生徒会役員になっても、今までにはなかった新しい提案が出てきており、主体的な活動の種類が増えている。

## 3 成果と課題

主体性を育成するために、各校で様々な取組が行われている。今後は新しい活動を行っただけになってしまわないように、反省を加えたり、この活動をどのように自分の将来に結びつけるかという視点を重視し、研究を深めていきたい。



# 「自己指導能力を育てる生徒指導のあり方」

～ 対話による共感的人間関係に支えられた集団作りを目指して ～

生徒指導部会

## 1 研究主題について

新中学校学習指導要領第1章総則（第4 生徒の発達の支援1（2））より「自己実現を図るため」に「自己指導能力の育成」が不可欠である。「自己指導能力の育成」には、「自己決定の場を与える」、「自己存在感を与える」、「共感的人間関係を育てる」という生徒指導三つの機能を教育活動の中に取り入れ、生徒の育成にあたらなければならない。

学校教育は集団での活動を行えることが大きな特徴であり、「共感的人間関係を育成する」ことが特に可能となる。お互いを尊重しあう態度が身に付くことにより、生徒が安心して自分の意見が発言できたり、相手の考えを最後まで聞いて自分の考えを深めたりすることができ、好ましい人間関係につながり、豊かな集団生活を送ることにつながると考える。そのような集団の中で生徒が活動することで、残りの二つの機能についても、各学校の実態に合わせて育成のための取組を行うことで効果が期待できると考え研究を進めた。

## 2 夏季研修会

今年度は8月19日に観音寺市会館ハイスタッフホールで夏季研修会を予定していたが、新型コロナウイルス感染防止のため、夏季研修会を中止した。

また5月と11月に予定していた役員会も感染防止のため中止を余儀なくされた。

ここでは来年度研究発表を控える高松支部香川第一中学校の取り組みを紹介する。

香川第一学校では研究主題を「自他のよさを認め、主体的に未来を切り拓く集団づくり～みんなが楽しいと思える学校づくりを基盤とした生徒指導の推進～」として研究を行っている。

今年度、主に取り組んだことは「授業のユニ

バーサルデザイン化」と「学級力向上プロジェクト」である。

学校に来ることが楽しいと思えるようにするには生徒がわかる授業を行うことが大切であると考えた。

生徒が授業に対して前向きに取り組むことができるようになれば、学校生活も落ち着き雰囲気も良くなる。黒板周辺の環境整備や、板書の工夫など、授業中に生徒が今何をしているか一目でわかるような工夫を行った。

次に「学級力向上プロジェクト」でよりよい学級にするために自分たちの生活を生徒自身が見直した。

学級で「学級力向上アンケート」を行い、結果から委員長と教員が分析を行った。

その後、委員長会で分析結果を持ち寄り話し合い対策を考え、その対策を学級に持ち帰り、取り組んだ。再度アンケートを行い、結果から学級がどのように変わっていったかを考察した。

このサイクルから学級で今やるべきことを共有し、みんなで問題を解決していく体験ができると考えた。実際にこの取り組みによって自分たちの生活を見直し、学級での居心地がよくなったという意見が出ている。

## 3 成果と課題

新型コロナウイルス感染防止のため今年度も全体での研究会は実施できなかった。

来年度は高松市立香川第一中校での研究大会を予定している。生徒の「自己指導能力の育成」に向けた取り組み方について、高松支部や香川一中の実践を知ることによって各学校の状況に合った具体的な生徒理解の方法や発達段階に合わせた取り組み方など、今後の生徒指導につながる多様な考え方を深めるきっかけになればよいと考える。

# 誰一人取り残さない教育の実現を目指して

## ～ ICT活用の日常化を通じた教育活動の充実 ～

メディア教育研究部会

### 1 研究主題について

中学校の新学習指導要領が2021年度より全面实施となり、そのポイントとして「情報活用能力」を学習の基盤となる資質・能力と位置付け、「資質・能力の三つの柱をバランスよく育成するため、(略)教材・教具や学習のツールの一つとしてICTを積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげることが重要。」とされた。そこでGIGAスクール構想の「児童生徒1人1台端末」の整備が2023年度を目標として進められたが、新型コロナウイルス感染症等による臨時休校措置により、その整備が前倒しにされ、2021年度には整備されることとなった。環境の整備は整ったが、配布された端末を「どう使うか」については各自治体・学校に任されており、新学習指導要領を踏まえつつ、ICTでどのように使えば授業改善につなげるかといった研究を更に推し進める必要があると考えている。

### 2 研究の概要

- (1) 役員研修会 令和4年1月理事会
- (2) NHK杯全国中学校放送コンテスト
- (3) 夏季研修会 中止

### 3 今年度の取り組み

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響でほぼ全ての研修会が中止となり、研究については各郡市及び各学校での研究となったため、各郡市の成果を抜粋した。

#### (1) 高松地区

屋島中学校で令和4年度にメディア研究大会が行われる予定である。アンケートの集約や生徒会選挙の投開票、オンラインでの職場体験を行った。

#### (2) 坂出・綾歌地区

アンケート機能の活用や、欠席生徒へのリモート授業を行っている。高校説明会を録画し、欠席者が見返せるようにしている。

#### (3) 丸亀地区

生徒用タブレットは島しょ部ではZOOMを用いた他校との交流や学習に使われている。一方で、島しょ部以外の学校では、回線状況が悪く、ほとんど使われていない状況である。

#### (4) 小豆地区

回線の充実や授業支援システム、デジタル教科書の導入などにより、すべての授業でICT環境を活用することができている。

#### (5) さぬき・東かがわ地区

オンラインによる共同学習に重きを置いて研修を実施した。Google Workspaceなどのツールを使い、チャット等での意思疎通が簡単にできるという利点を生かして実践する予定。

#### (6) 仲多度・善通寺

毎日の健康観察や、ロイロノートのアンケート機能を使い、瞬時に集計を行った。また、ZOOMによる集会や弁論大会を開催している。

#### (7) 三豊・観音寺地区

道徳で自分の立場を図に示し、理由をタブレットに打ち込ませてキーワード検索を行い、多く使用された単語を抜粋することで、生徒たちが最も大切にしたい価値を共有することができた。

### 4 今後の課題

GIGAスクール構想の前倒しにより、各地区で1人1台環境は整備されている。しかし、それを利用する教師の研修や新学習指導要領を実施する中で、ICTをどのように使うと効果的か等の研究はまだ始まったばかりであり、本部会でも積極的に研究を進めたい。

# 豊かな人権文化の創造をめざす人権・同和教育

人権・同和教育研究部会

## 1 研究主題について

21世紀は「人権の世紀」と言われ、近年「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ解消法」「部落差別解消推進法」など、差別解消のための法制化が進んだ。また、人権・同和教育に関するこれまでの様々な取組と蓄積によって、人権尊重の理解と意識は高まりと広がりを見せているように思われる。しかし、依然として同和問題をはじめ多くの人権課題があり、国際化、情報化などの進展で新たな人権課題も生じている。これらの現状をふまえ、人権尊重の視点で貫かれた学校づくり（人権文化の創造）を展開し、生徒が自分・他者ともにかげがえのない存在であると認め合い、互いを尊重し合う集団づくりをしながら、人権課題解決に向けた意欲と実践力の育成を図りたい。

## 2 研究の概要

### (1) 四国地区人権教育研究大会（誌上発表）

- ① 『過去は変わらないけど、未来は変わる！～差別の解消を発信する生徒の育成をめざして～』

高松市立庵治中学校

古味 英之・千葉 秀幸

あいさん（仮名）ら生徒たちが「大島青松園」で暮らすハンセン病回復者の方々と交流することを通して、間違った知識が差別や偏見を生むことを知り、正しいことを知ることの大切さを学んだ姿が報告された。小・中学校が連携して授業研究や現地研修を行うことで、人権・同和教育の取組の方向性を共有していく大切さについても教えてくれた。

- ② 『居心地の良い学校づくりをめざして～本音を語れるクラス会議の実践をととして～』 高松市立牟礼中学校

谷 洸希・三田 健太郎

登校できなかったはるかさん（仮名）が、周りのなかまや教職員に支えられてクラスに居場所を見つけ、感謝の思いを伝えたことを契機として、学校全体でクラス会議を行うことになった取組が報告された。「ほっとトーク」という対話活動をはじめ

生徒どうしをつなげる活動を取り入れ、なかまを認め、生徒たち自身で課題を解決していくスタイルを構築していった。

### (2) 香川県人権・同和教育研究大会（誌上発表）

- ① 『人権劇を核とした人権学習の取組』

琴平町立琴平中学校 細原 康平

四半世紀続いている「人権劇」は人権学習の核となる取組であり、テーマの「部落差別」について何を伝えたいのか、どんな生徒を育てたいのか、原点に立ち返った取組が行われた。生徒たち自身も、社会科の授業や地域の方から聞いた部落差別の現状や思いが大きな土台となって、部落差別を他人事ではなく自分事として考えられるようになった成果が報告された。

- ② 『やすとさんとともに』

さぬき市立志度中学校 細川 幸子

吃音症と自閉症の障がいがあるやすとさん（仮名）は、特性により周りの生徒たちから孤立しがちで、自分の特性と向き合い、周囲に「助けて」と言える人間関係を築いていくことが課題であった。「なかまのつどい」で発言したことを他の生徒が温かく返してくれたことが契機となり、やすとさん自身が自分の中にもっていた偏見に気づき、なかまの思いに寄り添い成長していく姿が報告された。

## 3 成果と課題

新型コロナウイルス感染症のため、県および四人研・全人教研究大会は誌上発表となった。その中で、報告された実践は、語り合いなどを通して「なかまづくり」や、教職員一丸となって生徒や保護者の願い、当事者の思いに「共感しかかわること」が共通点として上げられる。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、マイノリティが置かれる厳しい現実を浮かび上がらせた。このような状況であるからこそ、身近にあるさまざまな人権課題について正しく知る活動を通して、自分の中にある偏見や差別心を見つめ、なかまとともに人権が尊重される社会を実現していこうとする生徒をこれからも育成していきたい。

# 豊かな心と自ら学ぶ力を育てる学校図書館

学校図書館研究部会

## 1 研究主題について

読書には「豊かな心」を育てるとともに、学校図書館を中心に据えた「学ぶ力」を育成するという大きな役割がある。また、学校図書館は「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての役割を持ち、全ての教科、全ての教育活動において計画的・効果的に活用されることが望まれる。学校図書館部会では、生徒がよりよく生きるための「豊かな心」と「学ぶ力」を身に付けられることを目的とし、図書館教育を進めたいと考え、本研究主題を設定した。

## 2 研究の概要

今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、夏季研修会が中止になり、四国地区学校図書館研究大会もオンライン開催となった。昨年度に引き続き、本部会の研究も当初の計画から大幅に変更することとなったため、オンラインで視聴した四国地区研究大会から学んだことと誌上で提案発表をした内容について紹介する。

### (1) 四国地区研究大会から学んだこと

徳島県阿波市立市場中学校の発表をオンラインで視聴した。豊かな心と主体的に学ぶ生徒を育てるために、読書活動を支える手立てとして、本を読む環境づくりと読書習慣の形成、NIE活動を通じた読書の工夫が行われていた。また、学習活動を支える手立てとして、各教科等における学校図書館や図書を活用した授業の実践や教科等横断的な学習の創造に取り組まれていた。

特に印象に残った実践では、新聞コラムの視写や記事の要約・感想・1分間スピーチの活動によって、情報を正しく読み取り自分の考えをもつことができていた。また、他教科で学習した知識・培った力を活用する学習や探究テーマを設定した単元学習を通して、問

題発見・解決能力などの学習の基盤となる能力が身に付いていると感じた。

### (2) 小豆支部の提案発表

四国地区研究大会の発表内容の中で、教科における学校図書館の活用について紹介する。1年生の国語の授業では、本の帯づくりを行った。実際に販売されている本の帯を見て、使われている言葉や字の大きさの違いや配色等の工夫を探し、自分の本の帯づくりの参考にできるようにした。出来上がった作品は、図書室に掲示した。3年生の国語の授業では、社会問題の中から話題を決め、情報を集めてスピーチの会を開いた。話題を選ぶ際に、各自のタブレットPCや図書室の本、新聞の切り抜きから情報を集めた。スピーチメモをもとにスピーチし、動画を取り合って相互評価できるようにした。また、国語の授業を使って、全校生徒でビブリオバトルを行った。おすすめの本を読み直し、本に対する感想、登場人物の魅力、作品の構成、挿絵の効果、本との出会いなど、多面的に本のよさを捉え、工夫して伝えられた。

## 3 成果と課題

小豆支部では、提案発表に向けて図書室の環境が整備され、読書活動や委員会活動が充実してきた。また、国語科における図書館の活用が進んでいる。今後は、各教科で活用できる図書の情報を発信し、授業改善に生かしていき、図書室の利用の多様化を図っていく。

令和4年度は、さぬき・東かがわ支部で研究大会が開催される予定である。今年度の四国地区研究大会の発表内容も参考にしながら、来年度の発表に向けて研究を進めていく。

# 学校の教育力を高める組織的な教育相談体制づくりと教育相談の充実

— ①教育相談の在り方とその充実 ②教育相談体制の充実 ③教育相談に関する教員の意識及び能力の向上 —

教育相談研究部会

## 1 研究主題について

### (1) 教育相談の意義

中学校学習指導要領解説（特別活動編）によれば、「教育相談は、一人一人の生徒の教育上の問題について、本人又はその親などに、その望ましい在り方を助言することである。その方法としては、1対1の相談活動に限定することなく、すべての教師が生徒に接するあらゆる機会をとらえ、あらゆる教育活動の実践の中に生かし、教育相談的な配慮をすることが大切である。」とされている。すなわち、教育相談は、生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図るものであり、決して特定の教員だけが行う性質のものでなく、相談室だけで行われるものでもない。これら教育相談の目的を実現するためには、発達心理学や認知心理学、学校心理学などの理論と実践に学ぶことも大切であり、学校は教育相談の実施に際して、計画的、組織的に情報提供や案内、説明を行い、実践することが必要となる。（生徒指導提要（文部科学省）第5章「教育相談」参照・一部引用）

### (2) 研究主題の設定

教育相談部会では、生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図ることをを主要内容とし、研究主題「学校の教育力を高める組織的な教育相談体制づくりと教育相談の充実」を設定した。令和2年度は、研究組織の立ち上げに取り組むとともに、これまでの各支部・各学校の実践を生かしつつ、研究主題の達成が図れるように、サブテーマを幅広く設定した。

## 2 研究の概要

### (1) 各支部の主な内容

○高松、丸亀、小豆、さぬき・東かがわ  
仲多度・善通寺、三豊・観音寺

「学校の教育力を高める組織的な教育相談体制づくりと教育相談の充実」

○坂出・綾歌

「生徒一人ひとりを大切にした教育相談体制づくりと教育相談の充実～組織的な相談体制づくりと効果的な教育相談の在り方を求めて～」

### (2) 教育相談研究部会 理事・役員 研修会

日 時 11月16日（火）10：00～11：00

開催方法 オンライン「Teams」にて開催

内 容 部会運営と研究等

### (3) 教育相談研究部会 研修会

日 時 7月30日（金）9：30～12：00

場 所 高松市立太田中学校

内 容 全体会、講話、協議等

○講話「教育相談」

講 師 香川県教育センター

主任指導主事 吉松 佳子

○会場校提案（高松市立太田中学校）

「組織的な教育相談体制づくりと育てる教育相談の工夫」

## 3 成果と課題

7月の研修会では、本部会の各支部が一同に会し、研修を通して共通理解と認識が図れ、大変有意義であった。また、令和4年度に、「香川県中学校教育研究会教育相談研究大会（高松大会）」が高松市立太田中学校で開催が予定され、令和3年度に事前研究と研修、研究大会に向けての準備が進められたことは成果である。

今後は、継続して研究主題にアプローチし、研究推進を図りたい。

# 長期的な視野に立ち、共に生き共に高め合う特別支援教育をめざして

## — 『自信と勇気』をもたせる教育活動のあり方 —

特別支援教育研究部会

### 1 研究主題について

本部会では平成30年度より研究主題を「長期的な視野に立ち、共に生き共に高め合う特別支援教育をめざして」と設定し、生徒同士、教員と生徒、教員同士が、共に高め合うことができるより質の高い特別支援教育をめざしている。また、全ての生徒が義務教育を卒業し、進学や就職を迎える際に、自信をもって新たな社会に進み、勇気をもって夢を追うことができる力を育成することが、特別支援教育に与えられた責務であるという基本的な考えに基づいて、サブテーマを「『自信と勇気』をもたせる教育活動のあり方」に設定している。

生徒一人一人の教育的ニーズに応えるためにも、特別支援学級の担当者だけでなく、通常学級の担当者も含め全ての教員が特別支援教育についての知識・技能をもち、障害のある生徒だけでなく全ての生徒に対応できる授業をめざすなど、特別支援教育の更なる充実を図りたいと考えている。

### 2 研究の概要

#### (1) 第1回香中研特別支援教育部会研修会

- ① 期日 令和3年6月2日（水）
  - ② 場所 香川中部養護学校
  - ③ 内容
    - ・ 令和2年度事業・決算報告
    - ・ 令和3年度事業・予算計画
    - ・ 令和3年度研究テーマについて
    - ・ 令和3年度夏季研修会について
- ※ 感染症対策のため中止、紙面にて提案

#### (2) 夏季研修会

- ① 期日 令和3年8月17日（火）
- ② 場所 三木町文化交流プラザ

#### ③ 内容

- ア 講演  
香川大学教育学部 小方朋子 教授
  - イ 提案発表  
坂出市立坂出中学校 石井 美帆  
「小学校との連携」  
～人的、物的資源の活用を通して～
- ※ 感染症対策のため中止、提案発表については研究紀要にて報告

#### (3) 第2回香中研特別支援教育部会研修会

- ① 期日 令和4年2月24日（木）
  - ② 場所 香川県教育センター
  - ③ 内容
    - ・ 令和3年度事業・決算報告
    - ・ 令和4年度事業・予算計画
    - ・ 令和4年度研究テーマについて
    - ・ 令和4年度夏季研修会について
    - ・ 令和4年度提出書類について  
(名簿・進路状況等)
- ※ 感染症対策のため中止、紙面にて提案

### 3 成果と課題

昨年度に引き続き今年度も上記の通り、新型コロナウイルス感染症対策のため、夏季研修会が中止となり、予定していた講演や提案発表を行うことができなかった。また、各地区における活動についても全員が集まる機会が減るとともに、各地区で行っている特別支援学級の生徒を集めての活動も軒並み中止となり、思うように研究を進めることができなかった。しかし、そのような中でも各学校で取組を進め、報告し合い、今年度も特別支援教育部会としての研究紀要をまとめることができた。

これからも、会員相互に日々研鑽を積み、協力して研究を進めていきたいと考えている。

# ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成

～ へき地・複式・小規模校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして ～

へき地教育研究部会

## 1 研究主題について

令和3年度策定の香川県教育基本計画の重点項目の一つに「郷土を愛し、郷土を支える人材の育成」が掲げられている。現在、グローバル化や情報化の進展により、地域が世界と直接的につながる時代を迎えており、郷土を深く学び地域の課題について考えることはグローバルな課題解決への大きな端緒となる。2010年から始まった瀬戸内国際芸術祭でも瀬戸内の島々のよさが注目されてきたように、豊かな自然や地域の文化と新しい芸術とを組み合わせることで他の地域にはない新たな価値を生み出すことができ、地域を活性化させることは十分可能である。

このような時代を迎えるにあたり、へき地教育研究部会では、未来を生きる子どもたちに、地域の一員として「ふるさと」のよさを知り、「ふるさと」でたくましく生きていくための基盤を養い、自分の未来や我が国を切り拓いていく人間力を育んでほしいとの思いで、本研究主題を設定した。

## 2 研究の概要

### (1) 高松・直島

#### ① 研究主題

「豊かな心と確かな学力をもつ  
児童・生徒の育成」

#### ② 取組

- ・「プロジェクト型学習」(総合)で地域と連携し短編映画を制作
- ・幼小中一貫教育の推進
- ・英語教育の推進
- ・議会見学、一日議会体験の実施
- ・週末学習課題による学力補充

### (2) 丸亀

#### ① 研究主題

「ふるさとで心豊かに学び、  
新しい時代を切り拓く子どもの育成」

#### ② 取組

- ・豊かな人権感覚の育成
- ・豊かな表現力やコミュニケーション能力

の育成

- ・個の実態に応じた授業づくりの工夫
- ・保小中合同の避難訓練、リスクマネジメント研修の実施

### (3) 三豊・観音寺

#### ① 研究主題

「ふるさとを愛し、自ら学び心豊かで  
たくましく生きる児童・生徒の育成」

#### ② 取組

- ・保小中連携による教育活動の創造
- ・個に応じた指導(個別の指導計画作成)
- ・「伊吹塾」による学習支援の充実
- ・独居高齢者ふれあい訪問
- ・アサギマダラプロジェクト

### (4) 小豆

#### ① 研究主題

「ふるさとに誇りをもち、  
新しい時代を拓く、心豊かな子どもの育成」

#### ② 取組

- ・小中合同現職教育研修会の実施
- ・分かる授業を構築するためのICT利活用
- ・「お手伝い隊」「豊島を伝え隊」の活動の充実
- ・全校道徳や特別活動の充実

## 3 成果と課題

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により毎年夏に開催される「へき地教育研修講座」が中止となり、他の研修会や各支部の活動等も縮小された。しかし、各地域や各学校において、地域の関係機関と連携し、活性化に向けてそれぞれに工夫した実践を行ってきた。また、個に応じたきめ細やかな学習支援を行い、学力向上に向けての取組も行っている。

今後、生徒数の減少が予想され、休校を余儀なくされる学校が増えてくるであろう。それに伴い、学校数や職員数が減少し、研究組織の体制維持と研究活動の推進に支障が出てくるのが考えられる。リモート会議システム等を活用した研修・研究体制を構築していきたい。

# 教育ビジョン実現に向けて 未来をひらく学校事務の挑戦

学校事務研究部会

## 1 研究主題について

学校教育は児童生徒や保護者のニーズだけでなく、地域・社会情勢の変化や技術革新にも影響されている。そのような変化に柔軟に対応しながら、教育ビジョン実現に向けて未来を開拓できる事務職員であり続けたい。私たちの目指す「教育ビジョン」とは、単に「学校教育目標」だけを意味するのではなく、事務職員や共同実施・教育委員会・地域など、それぞれの描く「教育に対する理想像」を示している。

## 2 研究の概要

### (1) 高松支部

事務職員個人の能力を伸ばす「ひと」づくり、共同実施や教育委員会など複数の組織で連携・協同するための「ちから」づくり、業務を改善しこれから求められる新しい学校事務の「しくみ」づくりの3つの柱を基に専門研究「学校会計」「人事・情報」に一人一人が問題意識を持ち、能動的に学校の課題を解決するための研究を深めている。

### (2) 丸亀支部

グループ研究において関係機関と連携・協力し、主体的・積極的に学校経営に参画することで制度改正や効率的な事務処理体制の確立を図り、教職員の事務負担軽減に向けての教育支援を行っている。また、丸亀市内小中学校の未来を見据えて今まで継続してきた研究内容を改めて精査し、より効果的な研究ができるよう事務部会全体で考えていきたい。

### (3) 坂出・綾歌支部

会員の意識実態と教育ビジョンから課題を整理することにより出た、①「効率的な事務機能の強化」、②学びの保障を財務面から支える「有効な予算執行」と「学校集金のシステム整備」、③主体的・積極的に学校運営に参画するための「組織連携の強化」と「人材育成」について3グループで研究を進める。また研究内容を共有し共通実践していく。

### (4) 三豊・観音寺支部

本年度は社会の様々な状況変化から、オンラインでも研修し、知識や情報の共有化を図る取組を推進してきた。また共同実施組織や関係機関との連携で、教育ビジョンの実現に向けた実践を積み重ねている。引き続き「チーム力」を生かし、新たな一歩を確かな歩みに変えていきたい。

### (5) 仲多度・善通寺支部

「楽」をテーマに、共同実施と学校事務の未来を考える研究「未来を考える研究グループ」と、普段の業務で困っていることの相談、継続研究等の実務を通して現実を見つめる研究「現実を見つめる研究グループ」の2グループで具体的・実践的な研究を推進する。この2つのグループ研究を通して、企画・提案する力を養い、実践力を身に付けていきたい。

### (6) 小豆支部

全体研究では小豆郡全体の標準化等について、これまでの課題を焦点化し計画的に進める。町別研究では共同実施組織の連携を強化情報共有や共通理解を図ることで郡全体の学校事務の質の向上と共通実践につなげる。

### (7) さぬき・東かがわ支部

各校の業務における現状や課題をもとに研修内容を設定する。管理職講話等で学校事務職員としての心構えや業務の基本を身に付け、他校の具体的で実践的な事例・処理方法を学ぶことで、各校での学校運営や教育活動の支援につなげていきたい。

## 3 成果と課題

事務職員個人の資質向上の取組とともに、共同実施の活用や関係機関との連携により、制度改正や効率的な事務処理体制確立に向けた取組が進んでいる。この体制が実効性をもち、教育ビジョン実現につながるよう研究を深めたい。



# すこやかな心身と豊かな人間性をはぐくむ食育の在り方

— 学校給食を活用し、望ましい食習慣を身につけた生徒の育成をめざして —

学校給食研究部会

## 1 研究主題について

近年、生徒の食習慣の乱れや生活習慣病の増加を受け、食生活に関する知識を身につけるための食育の充実が重要な課題となっている。また感染症予防対策やICTを活用した指導など新たな対応も求められる。それらを考慮し、すこやかな心身と豊かな人間性をはぐくむ食育を推進するため学校教育全体で取り組む研究を各支部で進めた。

## 2 研究の概要

### (1) 高松支部

4グループに分かれ、定期的に研修を進めた。各校の取組や栄養教諭からの情報を共有し、危機管理・給食時の指導・マイランチ・授業実践について検討した。授業実践では「生活習慣病対策としてのコンビニ利用」を題材にした。生徒たちが自らの健康を考えて組み合わせができるようICTを活用して昼食を選ばせた。

### (2) 坂出・綾歌支部

感染予防を考えた安心・安全な学校給食の有り方を各校で情報交換し実践につなげた。黙食が定着したことから、食べながら視聴できる映像資料を作成し掲示物を充実させて、食に関する知識を深められるようにした。

### (3) 丸亀支部

授業実践では、地域の食文化としてだしについて考えさせた。だしの種類などについて試飲によって体感させ、だしが味に与える影響について学習した。栄養教諭との連携により、給食と関連した食に関する指導を行った。SDGsやカルシウム摂取など各校で様々な取組を実施することができた。

### (4) 仲多度・善通寺支部

ICTを活用して、昨年度の給食時間の動画を流して課題に自分で気づく指導を行ない、課題の共通理解を図った。動画で手本などを

示せたのは有効であった。また、血液の健康状態や食生活と生活習慣との関係を知ることで、自分の食生活を振り返り生活習慣病予防のための健康的な食生活への生徒の意識を高めた。

### (5) 三豊・観音寺支部

各教科との連携は学校生活全体を通じて食を身近に考えさせるのに有効と考えた。そこで国語科、英語科で食に関する授業を実施した。英語ではALTに生徒が作成した献立を英語で説明することで、献立作成や英語が苦手と感じている生徒も楽しんで学習に取り組んでいた。

### (6) さぬき・東かがわ支部

研究会では講師を呼び、地域の食文化についての教員間の意識を高めた。また生活習慣アンケートでの子どもが朝食を食べてくれないという回答から、簡単に作れるバランスの取れた朝食を保護者から募集し、年4回HPで家庭にお知らせをした。

### (7) 小豆支部

「成長期の食生活について考えよう」という研究授業を行なった。生活リズムと健康の関係を知り、友だちの考えた食事の組み合わせを見て、今後の食生活の目標を立てた。ICTの活用により、献立の画面共有や発表を行うことで学び合いの場ができ、また別室で授業を受けている生徒もリモート参加をすることができた。

## 3 成果と課題

前年度に引き続き、衛生面に気をつけて活動を実施できた。加えてICTの活用やSDGsに関連した取組が増えたことは大きな成果である。地域や栄養教諭との連携、給食時間をはじめ、教育活動全体での食に関する指導など実態に合わせて工夫された今年度の取組を次年度に生かしたい。

## IV 事業報告

---

---

# 本 部

---

---

### 1 令和3年度研究主題

「未来社会を切り拓く、生きる力を育む  
中学校教育の在り方」

### 2 活動方針等

#### (1) 活動方針

香川県教育委員会及び市町教育委員会、香川県中学校長会との連携を一層深め、急激な社会の変化に主体的に関わり、自らの可能性を発揮し、他者と協働しながら、よりよい社会の創り手となる生徒を育成するための実践的な教育研究を進め、県下中学校教職員の指導力や資質・能力の向上に努め、生徒の学力向上を図る。

#### (2) 運営体制

会長と支部長、各教科・教科外研究部会長との意思疎通を十分に図り、香中研全体が組織的かつ機動的に活動できるよう努める。

### 3 役員会及び運営委員会

#### (1) 第1回

本部役員会 5月13日（木）10：00～11：45  
運営委員会 5月20日（木）10：00～11：45

#### (2) 第2回

本部役員会 7月9日（金）14：00～16：25  
運営委員会 8月5日（木）14：00～16：25

#### (3) 第3回

本部役員会 11月18日（木）14：00～16：25  
運営委員会 12月3日（金）14：00～16：25

### 4 各支部・部会の事務局長・会計長会

- (1) 第1回 5月20日（木）14：00～16：25
- (2) 第2回 2月9日（水）13：00～16：25  
2月10日（木）13：00～16：25

### 5 調査研究活動

- (1) 香中研の組織・運営・研究方針に関する研究協議
- (2) 香中研研究大会及び夏季研修会の効果的な運営に関する研究協議
- (3) 研究部会による研究推進及び研究報告書等の研究協議

### 6 研究大会

- (1) 支部夏季研修会＜一部中止＞ 7月28日（水）
- (2) 教科夏季研修会＜中止＞ 7月30日（金）
- (3) 教科外夏季研修会＜中止＞ 8月17日（火）
- (4) 教科研究大会  
英語部会（県・大会） 11月5日（金）

### 7 研究成果刊行物・その他

#### (1) 「研究紀要」第62号、「香中研だより」

香川県教育委員会、同各教育事務所、香川県教育センター、市町教育委員会、県内大学、各中学校会員に配布

#### (2) 「研究紀要」URL

<http://www.kachuken.jp/honbu/news/>

## 高松支部

### 1 研究主題

「未来を切り拓く、生きる力を育む中学校教育の在り方」

### 2 高松地区中学校教育研究会総会

総会は開催せず、部会ごとに紙面での報告

内容 令和2年度事業報告・決算報告  
令和3年度事業計画・予算審議  
各部会（教科・教科外）事業計画  
役員選出、研究の進め方等

### 3 研究大会

#### (1) 令和3年度高松地区中学校教育研究大会

（北ブロック）

香川県立高松北中学校

研究主題 「人間性豊かに、自ら学び・考え・表現できる生徒の育成 ～体感力・対話力・探究力の向上によるグローバル人材の育成～」

#### (2) 令和3年度高松地区中学校教育研究大会

（南ブロック）

高松市立山田中学校

研究主題 「学ぶ喜びを共感し、自ら学び続けようとする生徒の育成 ～なかまとともに「主体的に学び、考え、表現する」授業の工夫～」

### 4 教科研究会・教科外研究会

新型コロナウイルス感染症対策を行いながら開催した。

#### (1) 教科研究会

定期試験前日の午後を中心に、関係中学校や総合教育センター等において、部会ごとに研究授業及び実践研修等を行った。

#### (2) 教科外研究会

定期試験第1日目の午後を中心に、関係中学校や総合教育センター等において、部会ごとに実践研修等を行った。

### 5 研究成果の発行

研究大会要項をブロックごとに会員に配付するとともに、部会ごとに研究紀要を作成して会員に配布。

## 丸亀支部

### 1 研究主題

「未来社会を切り拓く、生きる力を育む中学校教育の在り方」

### 2 主な研究会・行事

#### (1) 丸亀支部代表者研修会

日時 4月2日（金）14：00～16：00

会場 丸亀市立綾歌中学校

内容 研究主題、年間計画等について検討

#### (2) 総会並びに第1回部会

日時 4月30日（金）14：00～16：30

会場 丸亀市立東中学校 代表者のみ参加

内容 研究主題、研究計画、組織決め

教科部会（11部会）教科外部会（12部

会）

#### (3) 市夏季研修会…中止

日時 7月28日（水）9：00～

会場 丸亀市立西中学校、綾歌中学校 他

内容 教科部会

各教科で研究討議や現地研修会

#### (4) 市中学校総合研究会並びに第2回部会

日時 11月19日（金）13：30～16：30

会場 丸亀市立綾歌中学校

研究主題

「学びの楽しさを実感し、主体的に学習に取り組む生徒の育成～生徒の主体性を育む『学習課題の設定』と『かかわり合いの時間』を通して～」

内容 教科の研究主題に基づく公開授業  
研究討議

#### (5) 第3回部会

日時 12月8日（水）14：00～16：30

会場 丸亀市立西中学校

内容 本年度のまとめと来年度の計画

#### (6) 丸中研編集委員会

日時 1月5日（水）14：00～16：00

会場 丸亀市立綾歌中学校

内容 研究内容のまとめと編集

### 3 研究成果の刊行

「研究紀要第53号」全員に配布

本年度の研究経過、内容、討議等のまとめ

## 坂出・綾歌支部

### 1 研究主題

「未来を切り拓く、  
生きる力を育む中学校教育の在り方」  
—確かな学力の定着と  
豊かな心の育成をめざして—

### 2 主な研究活動

#### (1) 坂出・綾歌支部総会、教科、教科外研修会

期日 4月20日(火) ※参加者制限縮小  
会場 綾川町立綾南中学校  
内容 研究主題、研究計画、研究組織等の決定  
教科部会 (11部会)  
教科外部会 (13部会)

#### (2) 教科研修会

期日 10月5日(火) 市・郡内各中学校  
内容 部会ごとに研究授業、提案発表及び情報交換等  
※ 6月4日の第1回は中止(部会ごとに紙面による指導案検討等を実施)

#### (3) 教科外研修会

期日 7月28日(水) 市・郡内各中学校  
10月28日(木) 市・郡内各中学校  
内容 部会ごとに研究授業、提案発表及び情報交換等  
(7月28日の教科外Bは一部中止)  
※ 6月15日の教科外A第1回は中止

#### (4) 運営研修会

第1回 4月5日(月) 坂出市立東部中学校  
研究方針及び事業計画の作成  
第2回 1月28日(金) 綾川町立綾南中学校  
本年度の反省と来年度の計画及び研究日程案の検討  
※ 中止…紙面にて提案

### 3 研究成果の刊行

「研究と実践 第57号」を会員に配布

## 小豆支部

### 1 研究主題

「未来社会を切り拓く 生きる力を育む 中学校教育の在り方」

### 2 主な研究会・行事

#### (1) 小豆支部総会・部会研修会

日時 4月28日(水) 15:00~16:30  
会場 土庄町立土庄中学校  
内容 教科部会 (10部会)  
教科外部会 (11部会)  
研究組織・研究主題・研修計画等の決定  
※ 総会(全体会)は新型コロナウイルス感染症対策として、書面決議とした。

#### (2) 教科研修会

##### ① 第1回(統一日)

日時 6月9日(水)  
会場 郡内各中学校  
内容 研究授業・研究協議等  
※ 新型コロナウイルス感染症対策により中止した。各教科、必要に応じて、別日程で開催した。

##### ② 第2回

日時 さみだれ方式  
会場 郡内各中学校  
内容 テーマに基づく研究・研究授業・研究協議等

#### (3) 教科外研修会

##### ① 第1回(・第2回)

日時 さみだれ方式  
(各部会 年間1~2回)  
会場 郡内各中学校 他  
内容 テーマに基づく研究・研究授業・研究協議等

### 3 研究成果の刊行

「研究と実践」第61号を全員に配付  
入手先:小豆支部事務局(土庄中学校)

## さぬき・東かがわ支部

### 1 研究主題

「教職員一人一人の資質能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」

### 2 主な研究活動

#### (1) さぬき・東かがわ支部全体会（中止）

期日 4月28日（水）

会場 さぬき市立さぬき南中学校

内容 研究主題、研究計画、組織等の決定

※ 本会は中止となったため、紙面による報告を行った。

#### (2) 教科・教科外部長研修会

期日 4月28日（水）（中止）

内容 本年度のさぬき・東かがわ支部の研究会の在り方及び方向付け

※ 中止となったため、紙面による周知を行った。

#### (3) 教科研究会

期日 第1回：6月4日（金）（中止）

第2回：9月17日（金）

会場 さぬき・東かがわ市内各中学校等

内容 模擬授業、研究発表、録画映像の視聴による研究討議等

#### (4) 教科外研究会

期日 第1回：7月28日（水）（中止）

第2回：10月1日（金）

会場 さぬき・東かがわ市内各中学校等

内容 模擬授業、研究発表、研究討議、講話、実技研修、情報交換、現地研修等

### 3 研究成果の刊行活動

「研究紀要」を全会員に配布（2月）

## 仲多度・善通寺支部

### 1 研究主題

「未来社会を切り拓く、生きる力を育む中学校教育の在り方」

### 2 主な研究活動

#### (1) 仲・善支部総会

日時 4月30日（金）14：00～16：30

場所 多度津町立多度津中学校

内容 研究主題・研究組織・研究計画の決定

#### (2) 教科等研究会

日時 6月18日（金）14：00～16：30

場所 郡市内各中学校

内容 Zoomによる授業配信・討議会 等

#### (3) 教科・教科外研究会

日時 7月28日（水）8：20～12：20

※中止

#### (4) 教科等研究員研修会

日時 8月5日（木）8：40～12：00

※中止

#### (5) 教科等研究会

日時 10月12日（火）14：00～16：30

場所 郡市内各中学校

内容 教科研究員による研究授業・研究協議

#### (6) 学校事務部会

日時 5月17日（金）中止

8月18日（水）中止

11月16日（火）14：00～16：30

1月14日（金）中止

会場 まんのう町役場仲南支所 他

内容 研究主題・研究組織・研究計画の決定  
事例発表・グループ研究 等

### 3 研究成果の刊行

各教科・教科外部会の実践を「研究紀要」にまとめ、全会員に配布

---

---

## 三豊・観音寺支部

---

---

### 1 研究主題

「未来社会を切り拓く、生きる力を育む中学校教育の在り方」

### 2 主な研究活動

#### (1) 三観地区中学校教科・教科外等全体研修会

- ① 日時 5月6日(木) 14:00~16:30
- ② 会場 三豊市市民交流センターほか
- ③ 全体会：研究活動の推進について
- ④ 各部会：研究主題の決定  
組織づくり・研究計画の作成

#### (2) 三観地区中学校教育研究会

運営の見直しに伴い、本年度より総合研を実施しないため、令和3年度は研究会をもたない年度となった。

今後は、一斉研究会A群(教科研究)、B群(教科外研究)を、研究発表会をもたない年をはさんで、3年サイクルで開催する。

#### (3) 教科等各部会夏季研修会

- 7月21日(水)
  - ・学校事務(三豊市危機管理センター)
- 7月28日(水)
  - ・国語(観音寺グランドホテル)
  - ・社会(高瀬中学校)
  - ・数学(三豊中学校)
  - ・理科(観音寺中学校)
  - ・保健体育(仁尾中学校)
  - ・技術家庭(三野津中学校)
  - ・英語(三豊市コミュニティセンター)
  - ・養護(詫間中学校)
- 7月29日(木)
  - ・栄養(三豊中学校)
- 8月6日(金)
  - ・音楽(中部中学校)

#### (4) 各部会理事・主任研修会

- 年3回実施
  - ・第3回教科部会は、1月14日(金)  
15:00~16:30に一斉開催した。

### 3 研究成果の刊行

「三観の教育」第51集

---

---

## 国語教育研究部会

---

---

### 1 役員・理事会

- ・年間3回開催
- ・研究組織及び運営の検討
- ・研究の方向性についての協議
- ・令和5年度全国大会(三観支部)に向けて、組織や研究内容についての協議

### 2 夏季研修会

コロナウイルス感染拡大防止のため中止

### 3 若年研修部会

附属坂出中学校での若年研修会(授業研究、及び講師による指導助言)

### 4 機関誌「国語科教育」の刊行

- ・各支部の活動報告
- ・研究実践記録、随想等

### 5 ホームページ

Googleとyahooで「香川県中学校国語教育研究会」を検索

<http://sites.google.com/site/kagawakokugo>

---

---

## 社会科教育研究部会

---

---

### 1 役員会, 評議員会

年間5回開催, 研究組織及び内容の検討等

### 2 第17回 香川県小・中学校総合文化祭 社会科研究発表会

- (1) 日時 令和3年11月6日
- (2) 場所 レクザムホール  
小ホール棟5階「玉藻」
- (3) 内容 各郡市代表校による発表

### 3 若年教員授業力向上研修について

- (1) 日時 令和3年12月14日
- (2) 場所 附属坂出中学校
- (3) 内容  
13:00~13:30 受付  
13:30~13:40 開会  
13:40~14:30 授業視聴(ビデオ視聴)  
(授業者 香川大学教育学部附属高松中学校  
教諭 小野 智史)  
14:40~16:00 質疑・応答  
16:00~16:05 事務連絡

### 4 研究成果の刊行

「社会科研究」令和3年度

---

---

## 数学教育研究部会

---

---

### 1 総会

6月 Web採決

・前年度事業報告、決算報告、事業計画等

### 2 夏季研修会（中止）

7月30日（金）三木町文化交流プラザ

### 3 若年研修会 1

10月21日（木）附属坂出中学校

### 4 理事・代議員会及び研究委員会

若年研修会 2

2月19日（土）附属高松中学校

---

---

## 理科教育研究部会

---

---

### 1 役員・評議員・理事研修会

〔第1回〕 令和3年5月15日（土）

場所 香川大学教育学部附属坂出中学校

内容 事業・会計計画、役員改選 等

〔第2回〕 令和3年12月4日（土）

場所 香川県教育会館

内容 事業・会計中間報告、若年研の報告 等

〔第3回〕 令和4年2月19日（土）

場所 香川大学教育学部附属高松中学校

内容 各郡市研究成果の発表 等

### 2 第73回香川県中学校生徒科学体験発表会

期日 令和3年11月6日（土）

場所 穴吹学園ホール

最優秀 第1分野 高松市立龍雲中学校

第2分野 東かがわ市立引田中学校

### 3 若年研修会

期日 令和3年10月1日（金）

場所 多度津町立多度津中学校(リモート開催)

### 4 機関誌「理科教育—中学校—」の刊行

---

---

## 音楽教育研究部会

---

---

### 1 企画会

〔第1回〕 令和3年4月23日（金）

○ 事業・会計計画、役員改選等

〔第2回〕 令和3年11月19日（金）

○ 事業・会計中間報告、研究推進等

### 2 理事会

〔第1回〕 紙上にて確認

〔第2回〕 令和3年12月4日（土）

### 3 研究部会

〔第1回〕 令和3年8月20日（金）

○ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

〔第2回〕 令和4年2月20日（日）

○ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

### 4 夏季研修会

今年度中止

### 5 研究成果刊行

機関誌「香川音楽58号」

入手方法 音楽教育研究部会事務局（香川大学教育学部附属坂出中学校内）まで連絡

---

---

## 美術教育研究部会

---

---

### 1 役員・評議員 研究主任会含む

〔第1回〕 令和3年5月23日（日）

会場 香川大学教育学部附属高松中学校

令和2年度事業報告、令和3年度事業計画、予算案決議、研修会に向けて協議

〔第2回〕 令和4年1月23日（日）

会場 香川大学教育学部附属高松中学校

令和3年度実践報告、令和4年度事業構想

### 2 夏季研修会 令和3年7月30日（金）

新型コロナウイルス対応のため、中止

### 3 若年教員指導力向上研修

令和3年11月18日（木）

会場 香川大学教育学部附属坂出中学校

研修テーマ「つきたい力と学習評価」

### 4 総合文化祭展覧会

令和4年1月14日（金）～1月17日（月）

会場 高松市美術館

---

---

## 保健体育教育研究部会

---

---

### 1 役員会

- (1) 4月28日(水) 高松国際ホテル
- (2) 2月18日(金) 高松市総合教育センター

### 2 地区研究研修会

- (1) 第1回 6月6日(日) 玉藻中部会組織・研究計画
- (2) 第2回 9月5日(日) 玉藻中  
※中止
- (3) 第3回 1月9日(日) 玉藻中  
次年度計画

### 3 夏季研修会

※中止

### 4 若年者研修会

※中止

### 5 研究物の刊行

「県中保体だより」第62号

---

---

## 技術・家庭科教育研究部会

---

---

### 1 役員・理事研修会

〔第1回〕令和3年5月(書面決議)

- 令和3年度事業計画、予算案

〔第2回〕令和3年10月17日(日)

- 事業状況確認、研究内容検討

〔第3回〕令和4年3月(書面決議)

- 本年度のまとめと次年度計画

### 2 若年研修会

期日 10月22日(金)

場所 香川大学教育学部附属高松中学校

内容 授業討議、実践報告、指導助言など

### 3 研究成果刊行

・機関誌「技術・家庭科教育」第62号

### 4 香中研技術・家庭科部会HP

<http://www.kachuken.jp/section/gijyutsu-kateika/>

---

---

## 英語教育研究部会

---

---

### 1 理事会(会場:附属高松中学校)

- (1) 期日
  - 第1回 5月16日(日)(紙上にて確認)
  - 第2回 6月19日(土)
  - 第3回 11月27日(土)
  - 第4回 2月5日(土)(紙上にて確認)

(2) 会場 附属高松中学校

### 2 夏季研修会(中止)

- (1) 期日 7月30日(金)
- (2) 会場 丸亀市綾歌総合文化会館  
アイレックス

### 3 第70回香川県中学校英語弁論大会

- (1) 期日 10月2日(土)
- (2) 会場 附属高松中学校(事前録画で実施)

### 4 第44回四国英語教育研究大会

(四国大会は中止、「香川県英語教育研究会秋季研修会並びに香川県中学校教育研究会英語部会研究大会」として実施)

(1) 期日 11月5日(金)

(2) 会場 レクザムホール

### 5 機関誌「中英香川58号」発行

---

---

## 養護研究部会

---

---

### 1 役員・代議員・研究部員研修会

- (1) 令和3年5月21日(金) 香川県教育会館
  - ① 部会組織について
  - ② 令和3年度事業計画・予算案審議
  - ③ 令和3年度研究の進め方について
  - ④ その他 中体連救護活動等について

(2) 令和4年2月4日(金) 香川県教育会館

- ① 令和3年度事業報告・会計報告
- ② 令和3年度研究のまとめ
- ③ 令和4年度研究の進め方について

### 2 夏季研修会(中止)

(1) 期日 令和3年7月30日(金)

(2) 会場 香川県教育センター

### 3 研究成果の刊行

「研究紀要42号」



---

---

## 道徳教育研究部会

---

---

- 1 評議員・理事・研究委員会  
5月 → 書面表決  
○研究組織づくり, 夏季研修会・研究大会の持ち方  
2月 → 書面表決  
○今年度の反省と令和4年度の研究について
- 2 研修会  
6月29日(火)  
会場: 善通寺市立西中学校  
10月12日(火)  
会場: 善通寺市立西中学校
- 3 夏季研修会 → 中止  
日時: 8月17日(火)  
会場: 善通寺市立東中学校  
内容: 全体会: 基調提案  
課題別分科会: 実践発表

---

---

## 特別活動研究部会

---

---

- 1 役員・理事研修会  
(1) 期日 令和3年6月  
(2) 場所 三豊市豊中町農村環境改善センター  
(3) 内容  
① 令和2年度 事業報告、決算・監査報告  
② 役員改選  
③ 令和3年度 事業計画、予算案  
④ その他  
\* 新型コロナウイルス感染防止のため計画段階で開催中止決定 → 誌面決議
- 2 夏季研修会  
(1) 期日 令和3年8月17日(火)  
(2) 場所 ハイスタッフホール(観音寺市)  
(3) 内容  
① 各支部の実践発表  
② 講演  
\* 新型コロナウイルス感染防止のため中止、各支部の取組は刊行物に集録
- 3 研究成果刊行  
研究集録「特別活動」第45号

---

---

## 生徒指導研究部会

---

---

- 1 役員研修会  
〔第1回〕令和3年5月21日(金)  
○事業・会計報告、事業計画、役員改選事業案・予算案・各支部情報交換 等  
\* 新型コロナウイルス感染防止対策のため中止  
書面にて表決を行う。  
〔第2回〕令和3年11月19日(金)  
○事業報告と反省  
次年度の研究について・情報交換 等  
\* 新型コロナウイルス感染防止対策のため中止
- 2 夏季研修会  
期日 令和2年8月19日(木)  
場所 観音寺市民会館 ハイスタッフホール  
内容 講演  
\* 新型コロナウイルス感染防止対策のため中止

---

---

## メディア教育研究部会

---

---

- 1 評議員・理事研修会  
〔第1回〕中止  
内容 ①事業計画・会計報告  
②役員改選等  
〔第2回〕中止  
書面にて報告・中止  
内容 ①事業・会計報告  
②次年度研究方針等
- 2 NHK杯全国放送コンテスト  
香川県予選  
全国大会(令和3年8月)
- 3 夏季研修会  
中止
- 4 研究成果(Web掲載)  
URL <http://www.kagawa-edu.jp/kachuj01>

---

---

## 人権・同和教育研究部会

---

---

### 1 部会総会【紙面報告】

日時 5月7日(金)

会場 レグザムホール

内容 事業報告、事業計画、役員改選  
四人研・全人教研究大会報告内容検討

### 2 部会研修会

〔第1回〕日時 4月8日(木)

内容 事業計画

〔第2回〕日時 9月14日(火)

内容 香同教研究大会の業務、紀要

〔第3回〕日時 2月24日(木)

内容 反省、次年度の計画

### 3 夏季研修会【中止】

日時 8月17日(火)

会場 香川県社会福祉総合センター

内容 香同教研究大会及び全人教研究大会報告内容の検討・指導助言

### 4 人権・同和教育研究紀要の刊行

---

---

## 教育相談研究部会

---

---

### 1 役員(支部)研修会

○4月・6月・9月・11月・2月

### 2 理事研修会(5月実施)

○5月26日メール・紙面研修

### 3 理事・役員研修会(11月実施)

○日時 11月16日(火)10:00~11:00

○開催方法 オンライン「Teams」にて開催

○内容 部会運営と研究等

### 4 運営委員(支部)研修会

○6月・9月・11月・2月

### 5 県夏季研修会(8月中止)

### 6 研修会(7月実施)

○日時 7月30日(金)9:30~12:00

○場所 高松市立太田中学校

○内容 講話「教育相談」

講師 香川県教育センター

主任指導主事 吉松佳子

### 7 刊行等

○令和3年度研究紀要

---

---

## 学校図書館研究部会

---

---

### 1 学校図書館部会研修会

〔第1回〕

期日 令和3年5月13日(木)

場所 香川県教育センター

内容 事業・会計報告及び事業計画、役員改選

〔第2回〕

期日 令和3年11月4日(木)

場所 香川県教育センター

内容 読書感想文の審査

### 2 研究成果刊行

香川県読書感想文集67号

---

---

## 特別支援教育研究部会

---

---

### 1 役員・評議員・理事研修会

〔第1回〕令和3年6月2日(水)

○事業・予算計画、役員改選、夏季研計画

※感染症対策のため中止、紙面にて提案

〔第2回〕令和4年2月24日(木)

○事業・会計報告、研究成果刊行物配布

○次年度の事業・予算計画

※感染症対策のため中止、紙面にて提案

### 2 夏季研修会

期日 令和3年8月17日(火)

場所 三木町文化交流プラザ

内容

講演 香川大学教育学部 小方 朋子 教授

提案発表 坂出市立坂出中学校 石井 美帆

「小学校との連携」

～人的、物的資源の活用を通して～

※感染症対策のため中止、提案発表については研究紀要にて報告

### 3 研究成果「研究紀要」の刊行

---

---

## へき地教育研究部会

---

---

- 1 へき地教育研修総会（中止）  
期日 令和3年5月18日（火）  
場所 銀星旅館
- 2 へき地校長研修会・へき地教育研修会  
(1) 第1回 [6月9日（水）が延期になる]  
期日 令和3年8月2日（水）  
内容 研究紀要編集計画、原稿依頼
- (2) 第2回  
期日 令和3年9月24日（金）  
内容 研究紀要作成
- (3) 第3回  
期日 令和4年1月28日（金）  
内容 研究紀要校正
- 2 香川県へき地教育研修講座（中止）  
期日 令和3年8月2日（月）  
場所 土庄町立中央公民館
- 3 研究成果刊行  
「香川のへき地教育」発行

---

---

## 学校事務研究部会

---

---

- 1 学校事務研修会  
新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止【紙面報告】  
内容 事業報告・会計報告・役員組織決定・事業計画・予算案審議・各支部等研修計画を紙面にて協議・承認
- 2 令和4年度香川県小・中学校教育研究会学校事務部会研究大会に向けての事前研修会  
期日 令和3年8月20日（金）  
場所 各学校（オンライン開催）  
内容 講演：「学校徴収金について」  
講師：川口市立小谷場中学校  
事務主査 柳澤 靖明様

学校事務部会HP

<http://www.kagawa-edu.jp/kasckj01/htdocs/>

---

---

## 学校給食研究部会

---

---

- 1 役員・理事研修会  
(1) 第1回 令和3年6月3日（木）  
内容 事業計画・会計報告、役員改選等について
- (2) 第2回 令和4年1月27日（木）  
内容 各支部活動状況・次年度の計画
- 2 夏季研修会  
日時 令和3年8月17日（木）中止  
場所 三豊市市民交流センター  
内容 実践発表・講演
- 3 研究成果刊行  
令和3年度 研究紀要

## 令和3年度若年教員授業力向上研修の開催について

### 1 目的

本県では現在、10年間で教員の約40%が退職するという過渡期にあり、若年教員の増加とともに、これまでの授業力の維持が大きな課題の一つとなっている。一方で、県教育センターでは、若年教員を対象にする研修として、初任者研修や教職1年経験者研修を実施しているが、教職2～4年経験者を対象とする研修は実施していない。

そこで、初任者研修、教職1年経験者研修で基礎・基本を研修した教員が、以後の3年間で自己研修を積み重ね、授業力の向上を図ることを支援するため、教科指導に係る若年研修を、香川県中学校教育研究会と香川大学教育学部の附属中学校が連携して香川県教育センターとの共催事業として実施し、授業力の向上を中心とした資質能力の向上を図る。

### 2 対象

- (1) 教職2年～4年経験の中学校教員
- (2) 受講を希望する教員

### 3 内容

- (1) 授業説明・研究授業・授業討議・課題の共有等とする。
- (2) 本年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大予防のため、以下の変更と条件を加えて実施する。
  - ① 1回、香川大学教育学部附属中学校、公立中学校、香川県教育センター等で実施する。
  - ② 対象者は出席することが望ましいが、校内行事等により所属長が判断した場合は、欠席することができる。
  - ③ 研修は授業・討議、講話を中心に授業力向上に結びつく内容とすることから、研修内容について協議する。

- ④ マスクの着用や手指のアルコール消毒、3密を避け換気をするなど、新型コロナウイルス感染予防を徹底する。

- (3) 詳細は、各教科部会において「若年研修実施計画」を作成する。

### 4 実施報告

教科	国語	社会	数学	理科
対象者数	28	32	14	20
開催	10.26 (火)	12.14 (火)	10.21 (木)	10.1 (金)
会場	附坂中	附坂中	附坂中	多度津中
参加者数	対象者			
	22	26	6	13
	対象者外			
	2	2	7	10
教科	音楽	美術	保体	技・家 (技術)
対象者数	9	8	24	4
開催	10.27 (水)	11.18 (木)	1.18 (火)	10.22 (金)
会場	県教育 センター	附坂中	一宮中	附高中
参加者数	対象者			
	5	7	中止	3
	対象者外			
	1	1	中止	8
教科	技・家 (家庭)	英語		
対象者数	5	31		
開催	10.22 (金)	11.5 (金)		
会場	附高中	レクザム ホール		
参加者数	対象者			
	3	23		
	対象者外			
	4	100		

## V 組織等

### 本 部 役 員

役員名	氏名	勤務校	職名	郵便番号	学 校 所 在 地	電話番号	FAX番号	備 考
会長	江口 俊史	さぬき市立さぬき南中学校	校長	761-0901	さぬき市大川町富田西2823番地1	(0879)43-4304	(0879)43-4308	sanukiminami-jhs@sanuki.ed.jp
副会長	合田伸太郎	高松市立桜町中学校	校長	760-0074	高松市桜町二丁目12番4号	(087)861-1668	(087)861-1693	j-sakura@edu-tens.net
副会長	佐々木 徹	丸亀市立飯山中学校	校長	762-0082	丸亀市飯山町川原1110番地	(0877)98-2027	(0877)98-7663	hazan-j@mei.ed.jp
副会長	平野 卓	土庄町立豊島中学校	校長	761-4661	小豆郡土庄町豊島家浦2516番地	(0879)68-2020	(0879)68-3143	teshimaj@teshima.ed.jp
事務局 局長	大原 一仁	三豊市立詫間中学校	校長	769-1101	三豊市詫間町詫間5796番地1	(0875)83-2108	(0875)56-5377	takumajh@city.mitoyo.lg.jp
事務局 次長	川田 英之	三豊市立詫間中学校	教頭	769-1101	三豊市詫間町詫間5796番地1	(0875)83-2108	(0875)56-5377	takumajh@city.mitoyo.lg.jp
研究部 部長	北岡 隆	琴平町立琴平中学校	校長	766-0003	仲多度郡琴平町五條661番地1	(0877)73-4181	(0877)73-4182	school@kotohira-j.ed.jp
研究部 次長	石川 恭広	香川大学教育学部附属坂出中学校	副校長	762-0037	坂出市青葉町1番7号	(0877)46-2695	(0877)46-4428	sakachu@ed.kagawa-u.ac.jp
研究部 次長	藪内 康則	香川大学教育学部附属高松中学校	副校長	761-8082	高松市鹿角町394番地	(087)886-2121	(087)886-2124	takachu@ed.kagawa-u.ac.jp
監 査	遠藤 克己	綾川町立綾上中学校	校長	761-2203	綾歌郡綾川町山田上甲1180番地	(087)878-2020	(087)878-2049	endo.katumi@ayagawa.ed.jp
監 査	有木 秀樹	多度津町立多度津中学校	校長	766-0003	仲多度郡多度津町本通二丁目11番55号	(0877)33-2271	(0877)56-6410	info@tadotsuchuu.tadotsu.jp

### 支 部 役 員

No	支部	支 部 長	勤務校	〒	学校所在地	電話番号	事務局長	勤務校	〒	学校所在地	電話番号	会計長	勤務校	〒	学校所在地	電話番号
1	高松	合田伸太郎	桜町	760-0074	高松町2-12-4	(087)861-1668	小川 浩	木太	760-0080	高木太町5059-3	(087)866-5588	齋藤 和子	木太	760-0080	高木太町5059-3	(087)866-5588
2	丸亀	佐々木 徹	飯山	762-0082	丸亀山町川原1110	(0877)98-2027	岡野 隆伸	綾歌	761-2406	綾歌町栗熊東431	(0877)86-2006	池下 香	綾歌	761-2406	綾歌町栗熊東431	(0877)86-2006
3	坂出・歌	遠藤 克己	綾上	761-2203	綾川町山田甲1180	(087)878-2020	佐藤 淳	綾南	761-2103	綾川町陶5593-1	(087)876-1187	佐藤 淳	綾南	761-2103	綾川町陶5593-1	(087)876-1187
4	小豆	平野 卓	豊島	761-4661	小土庄町豊島家浦2516	(0879)68-2020	竹田 昌弘	土庄	761-4121	小土庄町瀨崎甲1936	(0879)62-0054	竹田 昌弘	土庄	761-4121	小土庄町瀨崎甲1936	(0879)62-0054
5	さぬき・東かがわ	江口 俊史	さぬき南	761-0901	大川町富田西2823-1	(0879)43-4304	松浦 隆夫	大川	769-2604	東西村1510	(0879)25-2175	赤松 伸弥	さぬき南	761-0901	大川町富田西2823-1	(0879)43-4304
6	仲多度・善通寺	有木 秀樹	多度津	764-0014	多度津町本通2-11-55	(0877)33-2271	佐藤 理香	多度津	764-0014	仲多度津町本通2-11-55	(0877)33-2271	佐藤 理香	多度津	764-0014	多度津町本通2-11-55	(0877)33-2271
7	三豊・観音寺	森 清司	豊中	769-1506	豊中町本山甲148-1	(0875)62-2071	佐川 圭三	尾仁	769-1406	三尾町仁尾辛38-2	(0875)82-2715	大西 範英	豊中	769-1506	豊中町本山甲148-1	(0875)62-2071

部 会 役 員

No	部 会	勤務校	〒	学 校 所 在 地	電話番号	事務局長	勤務校	〒	学 校 所 在 地	電話番号	會計長	勤務校	〒	学 校 所 在 地	電話番号
1	国 語	善 西	765-0013	善 文京町4-1-1	(0877) 62-2340	田村 恭子	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	木村 香織	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695
2	社 会	高 瀬	767-0011	高瀬町下勝間 2725-1	(0875) 72-3161	大西 正芳	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	藤本 大貴	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695
3	数 学	丸 亀東	763-0034	丸 大手町1-5-1	(0877) 22-4154	太田 隆志	附高松	761-8082	高 鹿角町394	(087) 886-2121	山野 景子	飯 山	762-0082	丸 飯山町川原 1110	(0877) 98-2027
4	理 科	観 音寺	768-0061	観 八幡町10-7	(0875) 25-2440	赤木 隆宏	附高松	761-8082	高 鹿角町394	(087) 886-2121	川野 直美	協 和	761-0311	高 元山町88-2	(087) 867-5937
5	音 楽	太 田	761-8073	高 太田下町1800	(087) 866-1370	大田 菜美	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	中島美奈子	勝 賀	761-8014	高 香西南町565	(087) 881-3141
6	美 術	大 野原	769-1612	観 大野原町中姫 1189-3	(0875) 54-3100	渡邊 洋往	附坂出	761-8082	坂 青葉町1-7	(0877) 46-8170	板谷 優菜	香川一	761-1703	高 香川町浅野 1188	(087) 879-2131
7	保 健 体 育	香 川一	761-1703	高 香川町浅野 1188	(087) 879-2131	藤本 光	附高松	761-8082	高 鹿角町394	(087) 886-2121	芝野 明莉	附高松	761-8082	高 鹿角町394	(087) 886-2121
8	技 術 家	飯 山	762-0082	丸 飯山町川原 1110	(0877) 98-2027	渡邊 広規	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	大西 昌代	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695
9	英 語	豊 浜	769-1602	観 豊浜町和田浜 717	(0875) 52-2152	眞鍋 谷子	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	黒田 健太	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695
10	養 護	桜 町	760-0074	高 桜町2-12-4	(087) 861-1668	古市 悦子	山 田	761-0443	高 川島町東1257	(087) 848-0071	柏野 絹江	屋 島	761-0112	高 屋島中町295	(087) 814-2236
11	道 徳	善 東	765-0014	善 生野本町2-14-1	(0877) 62-2360	別府 雅則	善 東	765-0014	善 生野本町2-14-1	(0877) 62-2360	石原 美帆	善 西	765-0013	善 文京町4-1-1	(0877) 62-2340
12	特 別 活 動	三 豊	768-0101	三 山本町辻876	(0875) 63-3028	石川 数志	豊 浜	769-1602	観 豊浜町和田浜 717	(0875) 52-2152	福本香緒里	豊 中	769-1506	三 豊中町本山甲 148-1	(0875) 62-2071
13	生 徒 指 導	木 太	760-0080	高 木太町5059-3	(087) 867-3382	池内 直樹	香川一	761-1703	高 香川町浅野 1188	(087) 879-2131	三好 崇	勝 賀	761-8014	高 高松市香西南 町565	(087) 881-3141
14	メ デ ィ ア 育 成 権 同 和 教 育 校 書 館	屋 島	761-0112	高 屋島中町295	(087) 841-2236	大広 大智	丸 東	763-0034	丸 大手町1-5-1	(0877) 22-4154	藤原 悟	玉 藻	760-0077	高 上福岡町714-1	(087) 861-8196
15	人 同 和 教 育 校 書 館	土 庄	761-4121	小 土庄町淵崎甲 1936	(0879) 62-0054	吉永 泰三	土 庄	761-4121	小 土庄町淵崎甲 1936	(0879) 62-0054	篠原 靖和	土 庄	761-4121	小 土庄町淵崎甲 1936	(0879) 62-0054
16	学 図 書 館	白 鳥	769-2705	東 白鳥757-1	(0879) 26-3113	三枝 恵	小豆島	761-4431	小 小豆島町片城 甲44-1	(0879) 82-2136	木村恵理子	長 尾	769-2301	さ 長尾東954	(0879) 52-3182
17	教 育 相 談	庵 治	761-0130	高 庵治町691-1	(087) 871-2716	山下 久一	庵 治	761-0130	高 庵治町691-1	(087) 871-2716	綾田 美友	桜 町	760-0074	高 桜町2-12-4	(087) 861-1668
18	特 別 支 援 育 成 権 同 和 教 育 校 書 館	附 特 支	762-0024	坂 府中町綾坂889	(0877) 48-2694	佐藤 淳	綾 南	761-2103	綾 綾川町陶5593-1	(087) 876-1187	高木 由佳	綾 南	761-2103	綾 綾川町陶5593-1	(087) 876-1187
19	へ き 地 平 野	豊 島	761-4661	小 土庄町豊島家 浦2516	(0879) 68-2020	久保 賢吾	直 島	761-3011	香 直島町1580	(087) 892-3011	藤澤 一恵	男 木	760-0091	高 男木町165	(087) 873-0506
20	学 校 事 務	牟 礼	761-0121	高 牟礼町牟礼46-2	(087) 845-9604	山下 慶子	玉 藻	760-0077	高 上福岡町714-1	(087) 861-8196	湖崎 由衣	太 田	761-8073	高 太田下町1800	(087) 866-1370
21	学 校 給 食	山 田	761-0443	高 川島東町1257-1	(087) 848-0071	赤松 輝美	山 田	761-0443	高 川島東町1257-1	(087) 848-0071	松崎美彩子	香川一	761-1703	高 香川町浅野 1188	(087) 879-2131

# 令和3年度 予算

## 4 部会配分金

1 会員数	2048 人	
2 収入と支出		
【収入】		
会費	2,925円 × 2048人	5,990,400 円
助成金		100,000 円
繰越金		982,765 円
利息		500 円
合計		7,073,665 円
【支出】		
各郡市支部	1,425円 × 2048人	2,918,400 円
各教科・教科外部会		896,000 円
研究大会補助金	35,000円 × 1 + 50,000円 × 10 + 80,000円 × 0	535,000 円
本部事務局費		2,724,265 円
合計		7,073,665 円
※本部事務局費（予備費）		1,324,265 円

### 3 支部別会員数および配分金額

支部番号・支部名	令和2年度会員数	令和3年度会員数	配分金
1 高松支部	927	920	1,311,000 円
2 丸亀支部	234	238	339,150 円
3 坂出・綾歌支部	220	218	310,650 円
4 小豆支部	73	74	105,450 円
5 さぬき・東かがわ支部	150	148	210,900 円
6 仲多度・善通寺支部	165	161	229,425 円
7 三豊・観音寺支部	289	289	411,825 円
合計	2,058	2,048	2,918,400 円

部会名	基礎配分金	研究大会補助金				合計
		事前研究	県大会	四国大会	全国大会	
1 国語	56,000					56,000
2 社会	56,000					56,000
3 数学	56,000					56,000
4 理科	56,000					56,000
5 音楽	40,000					40,000
6 美術	40,000					40,000
7 保健体育	56,000					56,000
8 技術・家庭	48,000					48,000
9 英語	56,000		35,000			91,000
10 養護	36,000					36,000
11 道徳教育	36,000	50,000				86,000
12 特別活動(進路指導)	36,000	50,000				86,000
13 生徒指導	36,000	50,000				86,000
14 メディア教育	36,000	50,000				86,000
15 人権・同和教育	36,000	50,000				86,000
16 学校図書館	36,000	50,000				86,000
17 教育相談	36,000	50,000				86,000
18 特別支援教育	36,000	50,000				86,000
19 へき地教育	36,000					36,000
20 学校事務	36,000	50,000				86,000
21 学校給食	36,000	50,000				86,000
部会配分金	896,000	500,000	35,000	0	0	1,431,000
支部配分金	2,918,400					2,918,400
本部事務局(旅費等)	1,400,000					1,400,000
本部事務局(予備費)	1,324,265					1,324,265
合計	6,538,665	500,000	35,000	0	0	7,073,665

・各支部への配分金は1,425円 × 会員数  
 ・県大会については教科35,000円、特別の教科・教科外(養護含む) 50,000円、四国以上の大会は80,000円の助成金とする。  
 ・養護部会を含め研究大会がない特別の教科・教科外部会は36,000円の基礎配分、研究大会がある部会は144,000円の基礎配分とする。ただし、教科部会は従来通りで変更なしとする。  
 ・事前研究費として養護部会及び特別の教科・教科外部会に50,000円を助成する。

# 香川県中学校教育研究会 会則

(名 称)

第1条 本会は、香川県中学校教育研究会という。

(事 務 所)

第2条 本会の事務所は、原則として会長が定める学校内におく。

(目 的)

第3条 本会は、中学校教育に関する研究活動等を通じて香川県中学校教育の振興を図ることを目的とする。

(組 織)

第4条 本会は県内中学校に勤務する教職員をもって組織し、下記の支部と部会をおく。

高 松 支 部	国語教育研究会	道徳教育研究会
丸 亀 支 部	社会科教育研究会	特別活動研究会
坂 出・綾 歌 支 部	数学教育研究会	生徒指導研究会
小 豆 支 部	理科教育研究会	メディア教育研究会
さぬき・東かがわ支部	音楽教育研究会	人権・同和教育研究会
仲多度・善通寺支部	美術教育研究会	学校図書館研究会
三 豊・観 音 寺 支 部	保健体育教育研究会	教育相談研究会
	技術・家庭科教育研究会	特別支援教育研究会
	英語教育研究会	へき地教育研究会
	養 護 研 究 部 会	学校事務研究会
		学校給食研究会

第5条 支部・部会の運営については細則をもって定める。

(事 業)

第6条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 2 各教科、道徳、特別活動、およびその他の中学校教育に関する研究活動の育成と振興
- 3 教育に関する研究団体および関係機関との連絡提携
- 4 研究会、講演会、講習会の開催
- 5 その他必要な事業

(役 員)

第7条 本会は、会長1名および副会長3名をおく。

- 2 会長は、本会を代表し、会務を掌理する。
- 3 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

第8条 会長及び副会長は、運営委員会において選出する。

- 2 役員任期は1年とする。ただし再任を妨げない。
- 3 補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。

第9条 本会に会計監査2名をおく。

- 2 会計監査は、会計事務を監査する。
- 3 会計監査は、運営委員会において選出する。

(役 員 会)

第10条 本会の運営について協議するため、本会に役員会をおく。

- 2 役員会は、会長、副会長、事務局長、事務局次長、研究部長、研究部次長、監査、各支部長をもって構成する。
- 3 役員会は会長が招集する。



(運営委員会)

第11条 本会の運営について協議するため、本会に運営委員会をおく。

2 運営委員会は、会長、副会長、県校長会理事、第4条にかかげる各支部の代表者1名および各研究部会の代表者1名をもって構成する。

3 運営委員会は会長が招集する。

4 本会の予算決算は運営委員会で承認する。

第11条の2 会長は必要あるときは、支部長会、教科部会長会、特別の教科・教科外部会長会を招集することができる。

(事務局)

第12条 本会に事務局をおき、庶務部と研究部をおく。

2 事務局には事務局長、事務局次長、研究部長、研究部次長をおく。

3 前項の職員は会長が委嘱する。

4 事務局長は、本会の事務を処理する。

5 事務局次長は、事務局長を補佐し、事務を整理する。

6 別に第4条にかかげる支部および研究部会にそれぞれ部会事務局長をおき、本会の事務処理を補佐する。

7 研究部長は、本会の研究活動を推進する。

8 研究部次長は、研究部長を補佐する。

(経理)

第13条 本会経費は、会費、補助金、寄付金、その他の収入をもってこれにあてる。

(会計年度)

第14条 本会の会計年度は、毎年4月1日にはじまり翌年3月31日に終わる。

(会則の変更)

第15条 会則の変更は、運営委員会で出席委員の3分の2以上の賛成で議決しなければならない。

附 則

1 この会則は、昭和36年5月1日から実行する。

2 昭和38年7月5日改正

昭和40年5月26日改正

昭和42年7月20日改正

昭和43年1月17日改正

昭和46年12月7日改正（昭和47年4月1日より施行）

昭和51年1月30日（2部会の名称変更）

昭和54年12月17日（1部会新設）

昭和55年12月16日（1部会廃止）

昭和63年12月1日（1部会新設）

平成6年12月13日（1部会新設）

平成11年12月10日（1部会新設）

平成12年12月8日（1部会統合 平成13年4月1日より施行）

平成13年12月7日（第10条の2追加・一部修正 平成14年4月1日より施行）

平成15年5月30日（第4条の一部修正）

平成17年12月6日（支部再編及び部会統廃合のため第4条の一部修正

平成18年4月1日より施行）

平成18年12月14日（1部会の名称変更平成19年4月1日より施行）

平成30年5月24日（第10条の2・名称の一部修正）

令和元年5月23日（第10条新設）

令和2年5月21日（2部会廃止、1部会新設、1部会統合）

# 香川県中学校教育研究会

## 部会運営細則

(名 称)

第1条 本会は、香川県中学校教育研究会〇〇研究部会という。

(事 務 所)

第2条 本会の事務所は原則として会長が定める学校内におく。

(目 的)

第3条 本会は〇〇に関する研究活動等を通じて香川県中学校教育の振興を図ることを目的とする。

(組 織)

第4条 本会は、香川県内中学校に勤務する教職員をもって組織する。

(事 業)

第5条 本会は、前条の目的を達成するための次の事業を行う。

- 1 中学校〇〇に関する研究活動の育成と振興
- 2 中学校〇〇に関する研究団体および関係機関との連絡提携
- 3 研究会、講演会、講習会の開催
- 4 その他必要な事業

(役 員)

第6条 本会は、会長1名および副会長〇名をおく。

- 1 会長は、本会を代表し、会務を掌理する。
- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

第7条 会長および副会長は、理事会において選出する。

- 1 役員任期は1年とする。  
ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。

第8条 本会に、会計監査2名をおく。

- 1 会計監査は、会計事務を監査する。
- 2 会計監査は、理事会において選出する。

(事 務 局)

第9条 本会事務局をおく。

- 1 事務局には、事務局長、会計長をおく。
- 2 前項の職員は、会長が委嘱する。
- 3 事務局長には、本会の事務を処理する。
- 4 会計長は、本会の経理を処理する。

(経 理)

第10条 本会の経費は、本部よりの配分金をもってこれに当てる。  
本会経費の運用は、年度当初の予算をもって執行する。

(会 計 年 度)

第11条 本会の会計年度は、毎年4月1日にはじまり、翌年3月31日に終わる。

附 則 この細則は、昭和36年5月1日より実施する。

# 香中研研究大会開催地区割り当て計画

(平成26年度第2回運営委員会でH30～R8変更、R1.12.6現在)

(アルファベット：県大会 ◎：四国大会・中四国大会 ☆：全国大会)

## 【教科】

	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
国語			A ◎			D			C		A ◎				E ☆				B ◎			
社会				A ☆		E		B ◎				D				C ◎		E				A ☆
数学			D				A ◎		C			E			B ◎			A				
理科			E ◎			A			B		C ◎				A			D				A ☆
音楽			A			B			E ◎			A			D			A ◎				
美術		E ◎				A				A ◎		D			B			A				
保健体育			B ◎			A			D			A ◎			E			C				
技術・家庭	B ◎		C			E				A ◎		C A			D			B				E ◎
英語			D		A ◎				B				A ◎		C			E				D
養護			A			C			E			B			A			D				

## 【特別の教科・教科外】

■R2より改編

	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
道徳教育			A ☆		D			C			E ◎			B				A ◎				
特別活動	B			C			A			D				E			A					
生徒指導	A			D			E			C				A			B					
メディア教育		C ◎		E			D			B ◎				A			C					
人権・同和教育	C			A			B			E				A			D					
学校図書館			C ◎		A		B				E ◎	☆		D		☆	A					
教育相談		C			E			A			B			A			D					
特別支援教育			B ◎		A			D			A ◎			E			C					
へき地教育	①			② ◎							①				②				①			
学校事務			I				II				III			I			IV				III	
学校給食		B			C			A			B			A			E					

＜備考＞ A = 高松、B = 丸亀・仲多度・善通寺、C = 坂出・綾歌、D = 小豆・さぬき・東かがわ  
 E = 三豊・観音寺  
 I = 高松 II = 小豆・さぬき・東かがわ III = 仲善・三観 IV = 丸亀・坂出・綾歌  
 ・へき地教育のブロック割り①高・小・直、②丸・坂・三観の2ブロック  
 ・へき地教育は、香小研と共同開催のために、4年ごとの別ローテーション  
 ・学校事務は香小研と共同開催ではあるが、3年ごとのローテーション

## 香中研とはこのような団体です

### Q 1 香川県中学校教育研究会（香中研）とは、どのような組織ですか？

- A
- 香中研は昭和36年に発足した研究団体で、結成以来50年あまりの歴史と伝統を誇っています。
  - 県内全域を網羅する7つの支部と、中学校教育のほぼすべての教育活動を網羅する21の教科・特別の教科・教科外研究部会を有しており、研究活動等を通して香川県中学校教育の振興を目的としています。
  - 県内すべての市・町立中学校、県立中学校、国立大学法人附属中学校・特別支援学校と、一部の県立特別支援学校、私立中学校に勤務する多くの教職員が加入しており、令和3年度の会員数は2,048名です。

### Q 2 香中研はどのような活動をしているのですか？

- A
- 各支部（7支部）単位で、地域や各学校の実態に即した研究活動等を行っています。
  - 支部会員や県内全域の会員を対象とした研修会や研究大会を定期的で開催し、先進的な研究実践を発表したり日頃の取組について情報交換したりするなどして、研究の成果を広く県下に普及させています。
  - 研究大会等に向けた研究実践の情報交換等を通して、支部内はもとより広く県内会員相互の親睦が深められるとともに、互いに切磋琢磨しながら研究を進めたり研究発表の機会を提供したりすることが、中学校教職員としての仲間づくりにもつながっています。
  - 支部や県レベルで計画的・組織的に事業を展開しているので、香川県の中学校教育の充実や教職員全体の資質・能力の向上に大きく貢献しています。
  - 四国大会や全国大会を本県で開催したり、大会等で研究発表したりする際にも、香中研が推進の中核となっています。

### Q 3 教育委員会や中学校長会との関係はどのようになっていますか？

- A
- 香中研は、香川県教育委員会や市町教育委員会、中学校長会との密接な連携の下に運営されています。
  - 香川県教育委員会や市町教育委員会の指導・助言を得ながら、授業研究など学校現場における日々の教育実践を重視した研究活動等を進めています。
  - 教育委員会の教育の基本理念や教育方針、重点項目、教育施策等を具現化する研究活動等を進めています。

### Q 4 教育委員会等から香中研に対して、具体的にどのような支援や配慮がされているのですか？

- A
- 市・町立中学校の香中研会員には、関係市・町から会費の半額程度が教育関係団体補助金として援助されています。これにより、会員の実質負担額が大幅に軽減されています。
  - 香川県教育委員会から研究委託を受け、研究活動に対する指導・助言を得るとともに、研究活動費の支援も受けています。

※ 組織等に関する詳細については、会則をご覧ください。

香川県中学校教育研究会

研 究 紀 要

第62号

発 刊 日 令和4年3月31日

編集・発行 香川県中学校教育研究会  
事務局 三豊市立詫間中学校  
〒769-1101  
三豊市詫間町詫間5796番地1  
編集委員長 大原 一仁（本部事務局長）  
編集委員 川田 英之（本部事務局次長）

香中研研究紀要

URL <http://www.kachuken.jp/honbu/news/>

印 刷 所 株式会社美巧社  
高松市多賀町1丁目8番10







香川県中学校教育研究会  
2021

**The Society of Education for Junior High, KAGAWA**